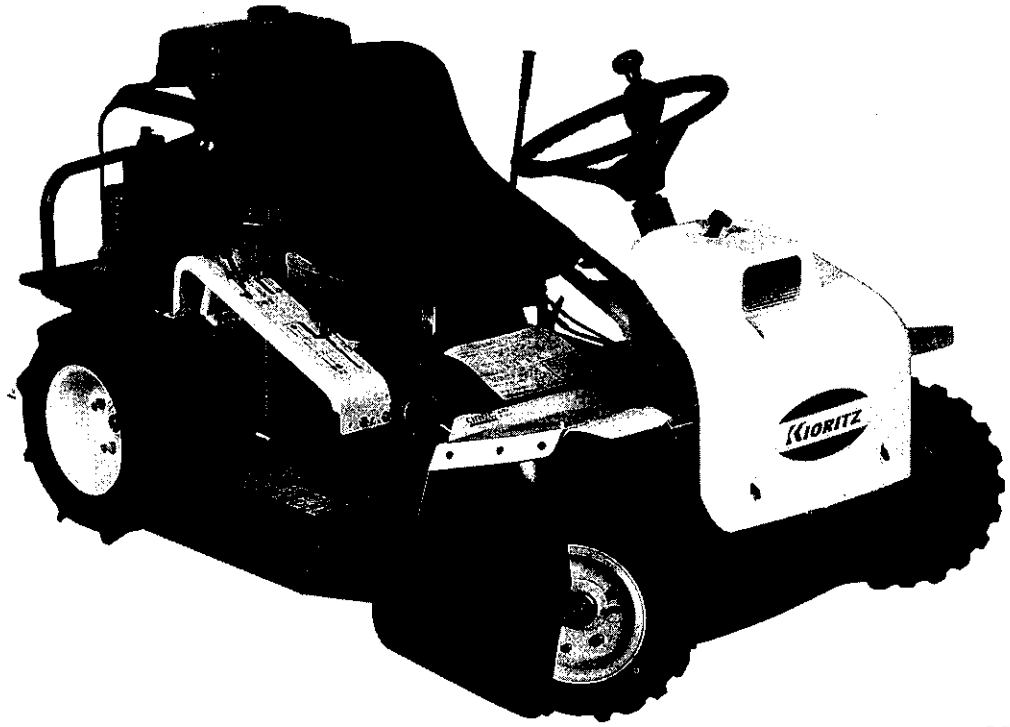
KIORITZ

共立乗用モアー

RM81A RM81B

取 扱 説 明 書



0271-70015

●取扱説明書本文中に出てくる重要危険部分は、製品を使用する前に注意深くお読みいただき、十分理解してください。
●本製品ご購入の際には、販売店より安全のための使用方法についての説明をお受けください。
●取扱説明書はいつでもごらんになれるよう、品質保証書とともに大切に保管してください。
●安全性維持のため、別紙点検表に従い年次点検をお受けください。(有料)
●各種サービスをお受けになる際には必ずメーカー純正部品とご指定ください。

※快適作業を維持するため、製品の定期点検を励行しましょう。

目　　次

項　目　　頁

《はじめに》 1
《本製品の規制について》 1
《保証とサービスについて》 1
《定義とシンボルマークについて》 2
《安全に作業をするために》 2
《機械を他人に貸すときは》 6
《方向について…》 6
《各部の名称》 7
《各部のはたらき》 8
《上手な運転のしかた》 10
運転前の始業点検 10
エンジン始動・停止のしかた 10
走行・変速・停止（駐車）のしかた 14
デフロックレバー操作のしかた 16
トラックへの積み卸しのしかた 17
《上手な作業のしかた》 18
草刈り作業のしかた 18
体格に合わせたハンドル高さの調整 20
《各部オイルの点検・交換・注油のしかた》 21
ミッションオイルの点検・交換・注油 21
エンジンオイルの点検・交換・注油 22
オイルフィルタの交換 22
エアクリーナの清掃のしかた 23
点火プラグの点検・調整のしかた 24
燃料パイプの点検のしかた 24
燃料コックの点検のしかた 25
タイヤ空気圧の調整のしかた 25
各部への注油のしかた 25
エンジン冷却系の清掃のしかた 26
各部ベルト/ワイヤ/ロッド調整のしかた 26
寒冷地での注意 29
《長期保管のしかた》 30
《ナイフの点検・交換のしかた》 31
ナイフの点検・交換 31
《バッテリ保守・点検のしかた》 33
バッテリ液の補水・補充電 33
《仕　様》 36
《工具袋・同梱品明細》 36
《消耗品明細》 37
《定期自主点検表》 38
《自己診断表》 39
《エンジンの不調とその処理方法》 40
《バッテリの故障とその処理方法》 41
《電解液による事故時の処置方法》 41
《バッテリ充電時間のめやす》 41

《はじめに》

このたびは、本製品をお買い上げ頂きまして誠にありがとうございました。
この取扱説明書は本製品を常に最良の状態に保ち、安全な作業をしていただくために、正しい取扱い方法と簡単なお手入れ方法について説明してあります。
ご使用の前に必ずこの取扱説明書を良くお読みいただき、安全な運転作業と正しい取扱方法を十分理解し、安全で能率的な作業にお役立て下さい。
又、お読みになった後はいつでも取り出してご覧になれるよう大切に保管し、本製品を末永くご使用頂けますようご活用下さい。
尚、品質・性能向上及びその他の事情による部品等の変更で、お手元の製品と本書の内容が一部一致しない場合がありますので、あらかじめご了承下さい。

《本製品の規制について》

本製品は、 果樹園の緩斜面下草刈り又はグランドでの雑草刈り機用として開発しておりますので、これ以外の用途には使用しないで下さい。

この草刈機は乗車定員１名です。また道路及び一般交通に供するような場所(農道､林道､公共広場等)では走行出来ません｡車両ナンバーを取得することも出来ません。

《保証とサービスについて》

本製品の保証期間は、購入後１ケ年間、又は５０使用時間(業務用については６ケ月間、もしくは５０使用時間)の内どちらか早い時点で到達した方となっております。ご使用中の事故・ご不審な点及びサービスに関するご用命は、お買い上げ頂いた販売店又は当社営業所までお気軽にご相談下さい。その際、**『商品型式と製造番号・搭載エンジンの型式名』**を併せてご連絡下さい。



「取扱説明書」に記載してある適正な点検・整備を怠った場合、及び仕様をこえた使用・改造等によっての故障・事故については、保証の対象外となります。

◎この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後９年と致します。但し、供給年限内であっても、特殊部品につきましては納期等についてご相談させていただく場合もあります。又、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期及び価格についてご相談させていただきます。

《定義とシンボルマークについて》

本書では、危険度の高さ(又は事故の大きさ)に従って、次のような定義とシンボルマークが使用されています。以下のシンボルマークがもつ意味を十分に理解し、その内容に従って下さい。

シンボルマーク	定　　義
⚠危　険	その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。
⚠警　告	その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。
⚠注　意	その警告文に従わなかった場合、ケガを負う恐れがあるものを示します。また、遵守又は矯正しないと、製品自体に損傷を与えるものも示します。
参　考；	操作、保守において知っておくと得な製品の性能、誤りやすいミスに関する事項を示します。

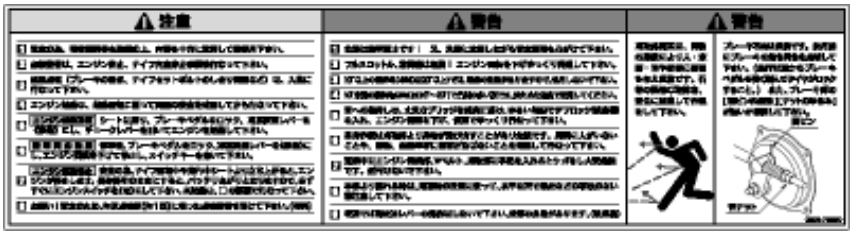
《安全に作業をするために》 …重要危険項目…

（１） 警告表示マーク

・以下の危険表示マークは本項目内における重要危険事項の中からとくに重要なものとして厳選されており、本体に貼付されています。ご使用の前に必ずお読みいただき、十分理解して必ず守って下さい。

●…危険表示マークが見えにくくなった場合には、貼り変えるなどして常にはっきり識別できるようにしておいて下さい。 〈37 頁…消耗品明細　参照〉

●…本機はガソリンを燃料としており、作業中はもちろん機械のそばでのくわえたばこや焚き火等の裸火照明は引火の危険がありますので絶対にしないで下さい。

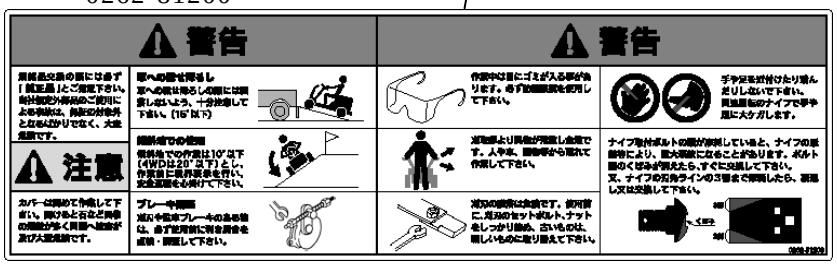


0308-75300



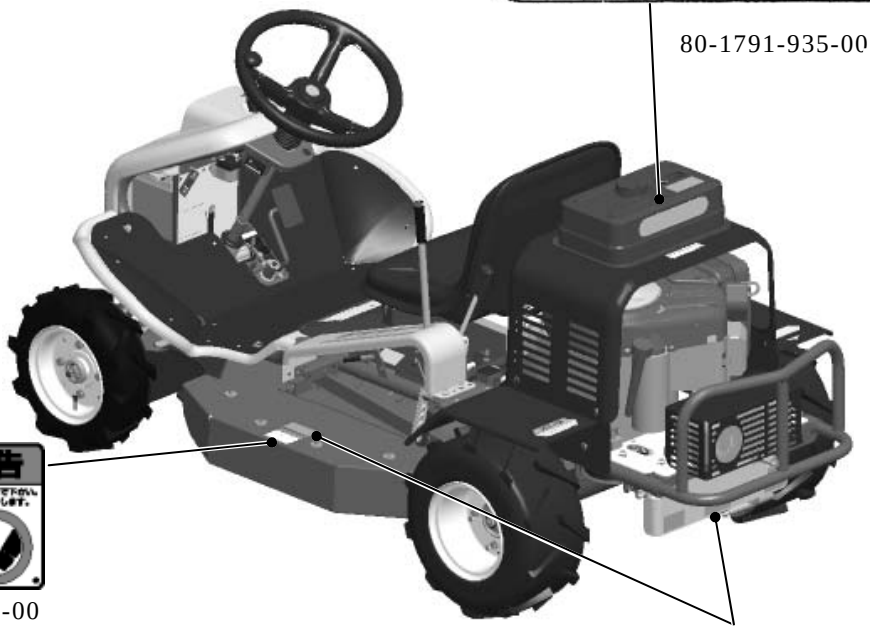


0262-81200



公道乗車禁止

80-1791-935-00



83-1484-921-00

注　意
このカバーなしの作業は危険です。
安全の為、運転時には必ずこのカバーを取り付けて下さい。

83-1516-908-00

（２） 作業前の注意

・本機は道路運送車両法の型式認定を受けておりません、公道での走行は絶対にしないで下さい。道路上の走行による事故、及び違反につきましては責任を負いかねます。

・本機は一人乗りです。作業者以外の人や動物等は乗せないで下さい。

・本機の運転に際しては、使用上の注意事項を十分理解し、安全運転を徹底して下さい。

・所有者以外の人は使用しないで下さい。

・過労、病気、薬物の影響、その他の影響により正常な運転操作が出来ない時には作業をさせないで下さい。又、酒気を帯びた人、妊婦、若年者、未熟練者にも作業をさせないで下さい。

・機械の回転部に巻き込まれたりしないよう、作業衣は長袖の上着に裾を絞った長ズボンを着用し、滑り止めのついた長靴や帽子又は、ヘルメット、防護眼鏡等を必ず使用して下さい。

・作業を開始するときには、周囲に人や動物、車両等がいないことを確認し、作業中は半径１０m以内にこれらのものを近付けないで下さい。

⚠ **安全のためのカバー類はもとより、標準に装備されている部品を外しての運転は、非常に危険です。事故防止のためこれらのカバー類、部品は必ず装着した状態で使用して下さい。**

・必ず、タイヤ取付けボルトが確実に締まっているか点検し、緩んでいるときは、しっかり締めて下さい。

⚠ **ナイフの脱落は危険です。ナイフのセットボルト・ナットをしっかり締めて下さい。又、古いものは新しいものに取換えて下さい。**

⚠ **ナイフ交換のための開閉カバーがあるものは、開いたままの使用は危険です。必ず閉めた状態で使用して下さい。**

⚠ **排気ガスによる中毒防止のため、屋内では使用しないで下さい。**

・転落防止のため、川や崖に向かっての作業はしないで下さい。

・ナイフクラッチと走行クラッチが**「切」**の時、Ｖベルトが確実に止まっているか点検し、もし少しでも動いている場合には、速やかにエンジンを停止しベルト押え、ワイヤを調整して下さい。

・１０°以上の勾配での傾斜地作業や、トラック搭載用ブリッジの勾配が１５°をこえると危険です。安全作業のため、これらの勾配角度未満でご使用ください。

⚠ **斜面で不要に走行クラッチを切ったり、チェンジレバーを中立にすると暴走し危険です。斜面では、これらの操作をしないで下さい。**

・平坦部と傾斜部との境目（路肩）を走行する場合は、路肩崩れや転落の危険性があります。十分に安全な平坦地を走行して下さい。

⚠ **暗い時、視界が悪いときの使用は危険です。周囲の状況が十分に把握できないときには使用しないで下さい。**

・安全作業の障害となるような本機の改造(夜間作業用のライトの装着、ナイフカバーの一部切断等)は絶対にしないで下さい。これらの改造に起因する事故、及び不具合に関しては、一切の責任を負いかねます。

（３） 燃料給油時の注意

・給油は必ず燃料タンクの油面上限マーク以下にし、万一多く入れ過ぎたときは、マーク以下になるまで抜き取り、又周辺にこぼれた燃料は必ずふき取って下さい。

⚠ **火傷や火災の危険がありますので給油はマフラの温度が十分下がってから行って下さい。**

（４） 始動時の注意

・エンジンの回りや排気ガス方向には、燃えやすいものを近付けないで下さい。

・走行クラッチ、ナイフクラッチを**「切」**位置にし、チェンジレバーを**「中立」**位置にして、ブレーキがあるものはブレーキを掛けてから始動して下さい。

・回りに人や動物や車両等がいない事を確認し、また周囲の安全を確認してから始動して下さい。

（５） 積み降ろし時の注意 〈17 頁…参照〉

・平坦で安全な場所を選び、トラックが動き出さないようにエンジンを止め、ギヤをバックに入れ、サイドブレーキを引き、車止めをして下さい。

・丈夫なブリッジを確実に掛け、ゆるい勾配でエンジン回転を下げ、変速レバーは積み込みは前進「①」位置で、降ろすときには後進「Ｒ」位置でどちらもゆっくり行いその他の位置には絶対入れないでください。

（６） 作業中の注意

・安全のため、余裕を持った運転を心掛け、急発進・急停止・急旋回はしないで下さい。

⚠ **排気マフラ高温となります。本機への乗り降り時等にマフラに手をかけると、火傷を負います。**

・バックする時は、子供や動物がいない事を確認して機械との間に挟まれたり、崖からの転落等がない様足場に注意して下さい。

・ベルトスリップによる異常な音・匂い・発熱は火災の原因です。その様な時は、すぐにエンジンを停止して点検・修理して下さい。

⚠ **刈取部より石などの異物が飛散し危険です。人や車、建物などからはなれて十分ご注意の上作業して下さい。**

⚠ **回転部分は危険です。とくにナイフカバー内は危険ですので、身体を近付けないで下さい。**

⚠ **冷却風の吸込口、シリンダ付近の草詰まりはエンジンの焼付きや火災の原因です。外側のみならず、内側もこまめに清掃して下さい。又、エアクリーナ内部の清掃も同時に行って下さい。**

⚠ **石等、危険物の多い場所では事前に石等の異物は取り除き、障害物の位置を確認した後に作業を始め、安全のため、通常よりも高刈りで作業をして下さい。**
ナイフが欠けたり、石が手前に飛んできたりして危険です。

・作業中、石・木株等に当たったときは、直ちにエンジンを停止し、ナイフの回転が停止した事を確認後、欠けや曲がりの有無を調べて下さい。

（７） 作業終了後の注意

・本機より離れる時は、必ずエンジンを止めて下さい。キースイッチがある物は、キーを抜いておいて下さい。
・安全のため、燃料コックは必ず閉めて下さい。

（８） 点検・整備時の注意

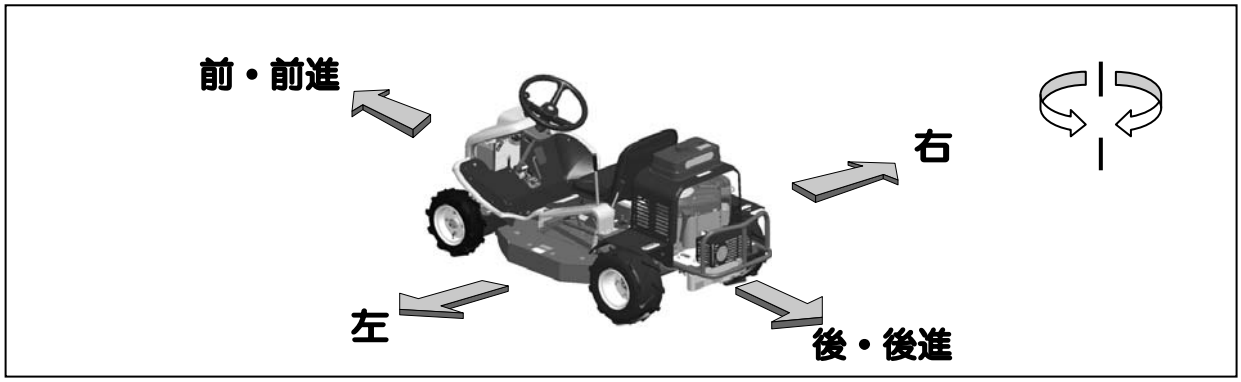
・機械の点検・調整・整備をする時は、必ずエンジンを停止して下さい。
⚠ **ベルトやナイフ部の安全カバー、及び飛散防止用のカバーの破損は危険です。破損した場合は使用前に必ず修理しておいて下さい。**
・取り外した回転部のカバー類は、必ず元の位置に正しく取り付けて下さい。
・ナイフセットボルトは安全のため、ナイフ交換の際には一緒に新品と交換して下さい。
⚠ **ゴムなどの燃料パイプは古くなると、燃料漏れの原因となり危険です。３年ごと、又傷んだ時には、締め付けバンドとともに新品と交換して下さい。**
・走行クラッチ・ナイフクラッチ・ブレーキ・スロットル・ギアチェンジ等の点検、調整は十分に行って下さい。
・点検・整備を行う場合、又シートをかける場合は火傷や火災を防ぐため、マフラやエンジン本体の冷却状態を十分確認したうえで行って下さい。
・ナイフブレーキ、走行（駐車）ブレーキのあるものについては安全のため、使用時間が１００時間に到達しない時点で交換して下さい。

《機械を他人に貸すときは…》

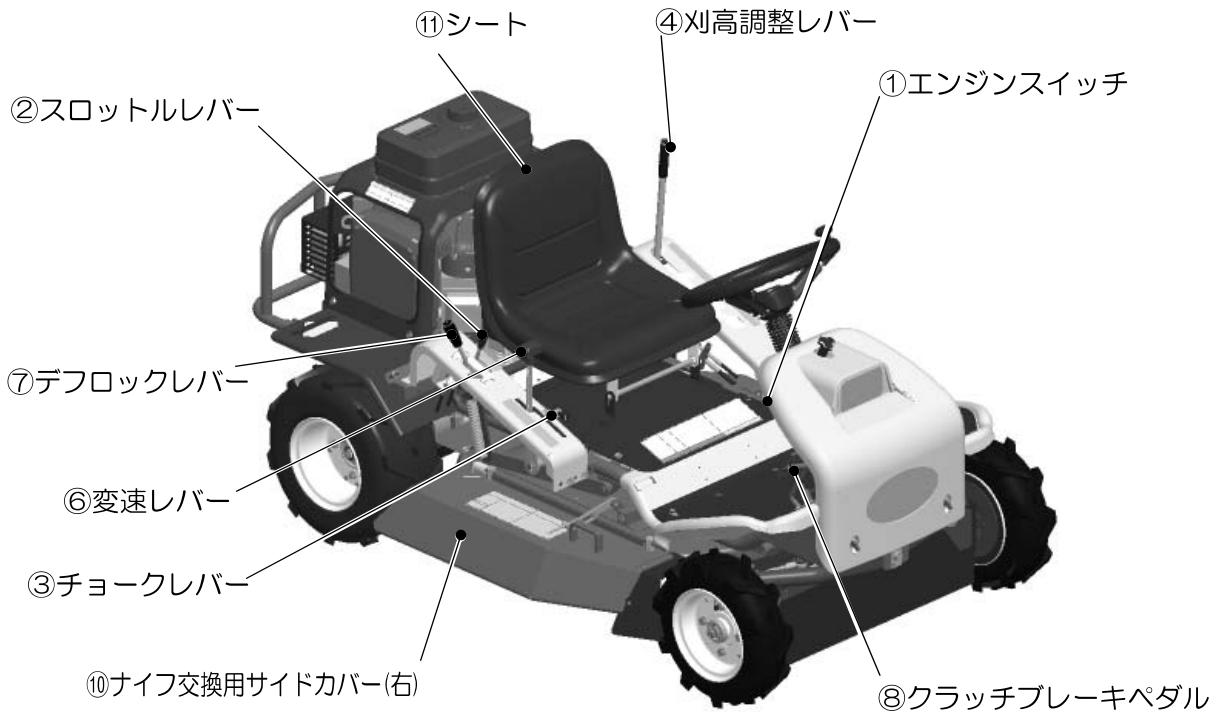
所有者以外の人には使用させないのが原則ですが、やむを得ず機械を他人に貸すときには、取扱い方法を説明し、「取扱説明書」をよく読んでもらい、取扱い方法や安全のポイントを十分理解してから作業をするように指導して下さい。
機械と一緒に「取扱説明書」も貸して上げて下さい。
親切心から機械を他人に貸して、借りた人が不慣れなために思わぬ事故を起こしたりするとせっかくの親切があだとなってしまいます。

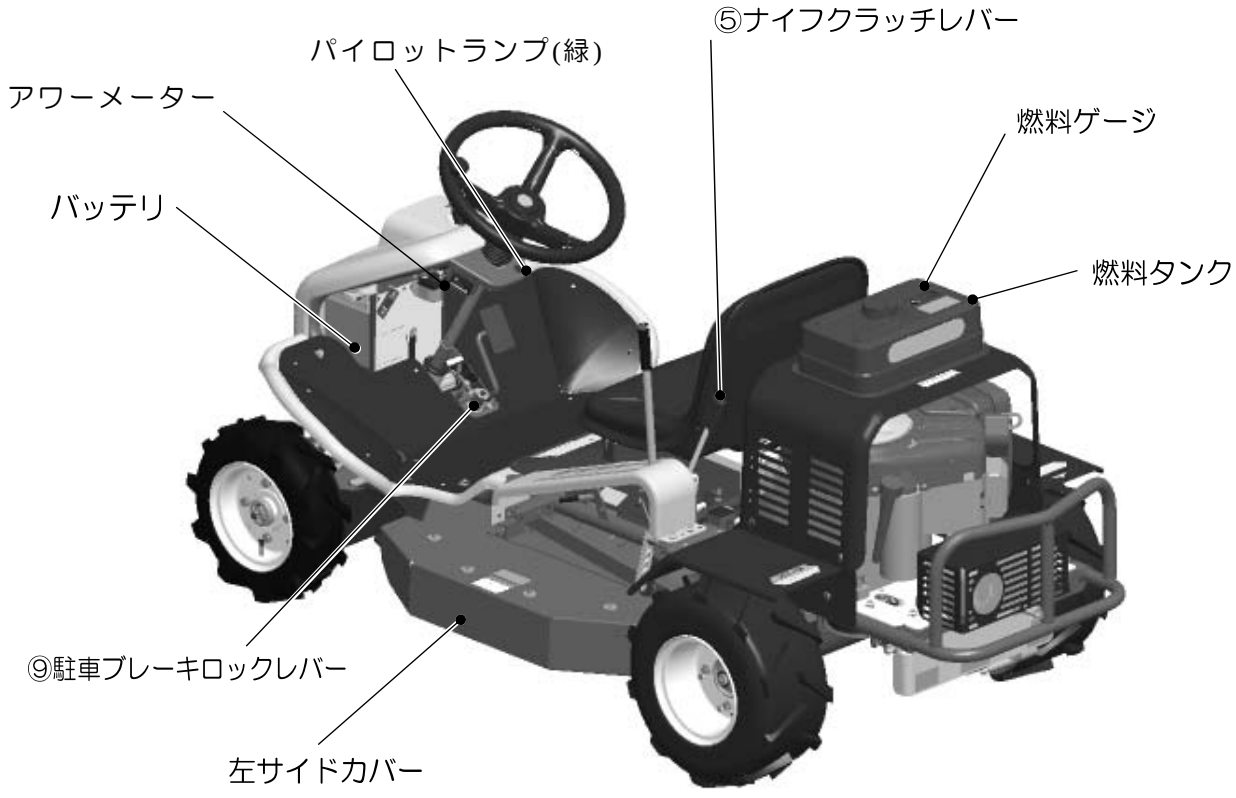
《方向について…》

本機の前後左右は、下図のようにシートに座った作業者から見た方向で表します。
本文中の、「前進」・「後進」についても、作業者からみた方向で表します。



《各部の名称》


⑪シート
④刈高調整レバー
①エンジンスイッチ
②スロットルレバー
⑦デフロックレバー
⑥変速レバー
③チョークレバー
⑩ナイフ交換用サイドカバー(右)
⑧クラッチブレーキペダル


⑤ナイフクラッチレバー
パイロットランプ(緑)
アワーメーター
燃料ゲージ
バッテリ
燃料タンク
⑨駐車ブレーキロックレバー
左サイドカバー

《各部のはたらき》

①エンジンスイッチ

キーを差し込み、エンジンの「始動(START)」、「入(RUN)」、「切(OFF)」を行います。

キーが「入(RUN)」の時、パイロットランプ(緑)は常時点灯し、キー「入」を知らせます。

②スロットルレバー

「低」～「高」までのエンジン回転数を調整します。

③チョークレバー

エンジン始動時に使用します。引けば「閉」位置、戻せば「開」位置となります。

エンジンが暖まっている場合には操作の必要はありません。

④刈高調整レバー

レバーを握り、少し持ち上げながらレバーを上下させ所要の高さに合わせてガイドのロック位置に確実に入れ込みます。刈高さは次の４段階です。

刈高調整レバー位置(標示	刈高さ(目安) mm
①	１０
②	３０
③	５０
④	７０
移　動	―

●刈取り高さは、地面の条件により左記の数値と異なる場合があります

⚠注意 ◎刈高さ調整後、刈高調整レバーがロック位置に確実にセットされているか、確認して下さい。

◎安全のため、作業圃場に乗り入れるとき、出るとき、また後進時には刈高調整レバーを手前に引いて、「移動」位置にして下さい。

⑤ナイフクラッチレバー

レバー位置　**「入」**… ナイフ回転　　**「切」**… ナイフ停止

⑥変速レバー

変速はシートに座った状態で、手前方向から順に**「後進」**R、 N **(中立)、「前進」**が①･②･③･④の４段階になっています。

「低速」①→②→③→④「高速」の順番で速度が変わります。

発進は、変速レバーが N (中立)以外のどの位置からでも可能です。④速は移動用です。

草刈り作業には使用しないで下さい。速度が速く作業には不適です。

◇◇本機が完全に停止してから、前進又は後進への切替を行って下さい。走行中に切替えを行うと動力伝達機構が破損します。◇◇

⑦デフロックレバー

通常は「切」位置で使用して下さい。

緩斜面や地面が軟弱な場所での作業において、後輪の片側がスリップして直進しにくい場合、またトラックへの積み降ろしの際にデフロックレバーを「入」位置にすると後輪の両タイヤは直結となり直進性が増します。

⚠ 注意

◎ 平坦地ではデフロックレバーは「切」位置で使用して下さい。
◎ 車への積み降ろしや坂道、傾斜地等の走行時には安全のため
デフロックレバーは「入」位置にして下さい。
◎ 走行しながらデフロックレバーの「入」·「切」を繰り返し行うと
ミッション内部のギヤを破損させる恐れがあります。

⑧クラッチブレーキペダル

走行速度を切換える際に踏み込みます。さらに踏み込むとブレーキがかかります。

●安全のため、変速レバーを切換える際にはクラッチブレーキペダルを一杯に踏み込んで本機を停止させた後、変速レバーの操作を行って下さい。

◇◇クラッチブレーキペダルを一杯に踏み込まないとエンジンは始動しません。◇◇

⚠ 警告

駐車ブレーキの効き具合を毎回作業開始前に必ず確認して下さい。駐車ブレーキの調整不良による事故は衝突、転落等即重大事故につながる可能性があります。あなたご自身のみならず、ご家族の幸せを守る為にも必ず施行下さい。<調整方法 27 頁参照>

⑨駐車ブレーキロックレバー

駐車時に、クラッチブレーキペダルのアームに掛けてロックし、駐車ブレーキとして使用します。

解除する場合はそのままクラッチブレーキペダルを深く踏み込むと、ロックレバーは解除されます。

⑩ナイフ交換用サイドカバー（右）

ナイフの点検・交換の際にこのカバーを開けて作業をします。

作業中は必ず閉めて下さい。開けたまま作業を行うと石やその他の異物の飛散で周囲に重大な被害を及ぼす事があります。

⑪シート

必ずシートに座ってエンジンは始動して下さい。

◇◇エンジン始動後、刈高調整レバーが「移動」、駐車ブレーキペダルが「ロック」位置以外でシートから腰を上げると安全の為エンジンは停止します◇◇

《上手な運転のしかた》

運転前の始業点検

安全で快適な作業を行うために**「定期自主点検表」**〈38 頁参照〉に従って始業点検を行い、前日の作業で確認された異常箇所は必ず整備をした後に作業を始めて下さい。

⚠警 告：本機に貼られている注意、危険マークも良く読んで下さい。

エンジン始動・停止のしかた

参考；

◇ **必ず**シートに座って始動して下さい。

■着座しなくても下記の２つの「必ず」が満たされていればエンジンは始動可能ですが、安全の為、必ず着座して指導する習慣をつけてください。

◇ **必ず**駐車ブレーキペダルは踏み込んで(ロックして)始動して下さい。ペダルが踏み込まれた状態にないとペダルスイッチが働いてエンジンは始動しません。

◇ **必ず**刈高調整レバーは「移動」位置にして下さい。「移動」位置以外ではナイフクラッチスイッチが働いてエンジンは始動しません。

安全のため、エンジン始動の際には以上３つの「**必ず**」はぜひ守って下さい。

各操作方法を十分に確認の上、エンジンを始動させましょう。

⚠ 危 険

①締め切った室内でエンジンを始動及び暖機運転をしないで下さい。
有害な排気ガスで空気が汚染され、ガス中毒をおこす恐れがあります。

②ガソリンエンジンを搭載していますので、くわえタバコや裸火照明はガソリンに引火したりして危険です。絶対に行わないで下さい。

③エンジンの始動時には、各レバーの位置と周囲の安全を確認して下さい。

⚠ 注意

●エンジン始動時には、各レバーの位置と周囲の安全を十分に確認して下さい。

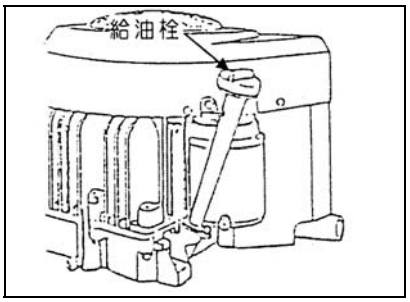
参考；

●エンジンの停止は必ずエンジンスイッチで行って下さい。
駐車ブレーキを「ロック」し、刈高調整レバーを「移動」位置にすればシートから立ち上がってもエンジンは停止しませんが、これ以外の位置でシートから立ち上がると安全のためエンジンは停止します。この場合、そのまま放置しておくとバッテリ上がりの原因となりますので、必ず駐車ブレーキ及び刈高調整レバーは始動位置に戻し、エンジンスイッチは「切 (OFF)」位置に戻しておいて下さい。

●エンジン始動後は、駐車ブレーキペダル及び刈高調整レバーの位置に関係なくシートに座っていればエンジンは停止しません。

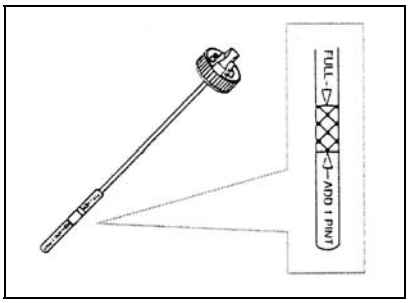
● エンジンオイルの点検はエンジン停止後、エンジン各部が冷えるのを待って火傷に十分注意して行って下さい。

■エンジン始動のしかた



①エンジンオイルを確認して下さい。

◎給油栓がオイルゲージを兼用しています。
オイルゲージの上と下の目盛線の間にオイルがなければ上の目盛線までオイルが付くようにエンジンオイルを補給して下さい。



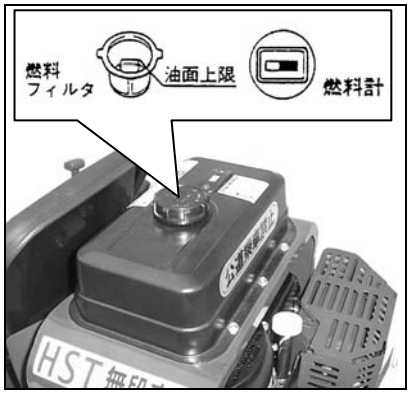
参考；

エンジンは水平にしてブリグスエンジンは注油栓をねじ込み、カワサキエンジンは注油栓をねじ込まずに差し込んで、オイルの量を点検して下さい。

- 使用するエンジンオイルは良質で清浄性を有するサービス等級ＳＦ，ＳＧ，ＳＨ，ＳＪ級以上の良質の新しいオイルを使用して下さい。
- 市販の添加剤は使用しないで下さい。

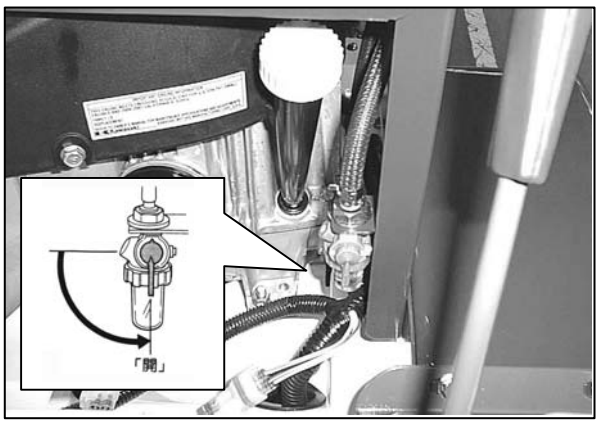
⚠警 告

●燃料給油時には必ずエンジンを停止させ、エンジン本体とマフラが冷えた後行って下さい。
●燃料がこぼれた場合にはきれいにふき取って下さい.特に傾斜地での使用の場合には給油口内フィルタの規定油面上限以下で使用して下さい。燃料が漏れ出す危険があります。

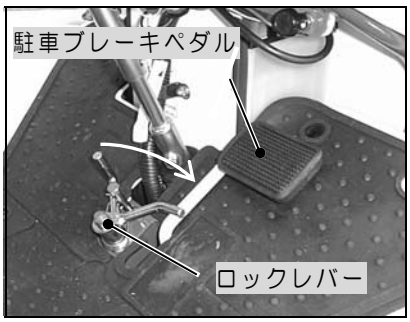


②燃料を確認して下さい。
燃料はレギュラーガソリンを入れて下さい。
〈燃料タンク容量は 36 頁…仕様参照〉

- 燃料計のゲージが「Ｅ」位置に近づいたら早めに燃料を補給して下さい。
- 燃料補給後は給油キャップを確実に締め付けて下さい。

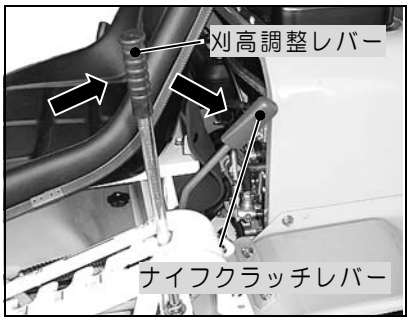


③燃料コックを「開(ON)」位置にして下さい。



④シートに座って下さい。

⑤駐車ブレーキペダルを踏み込んで(ロックして)下さい。
また変速レバーを中立「N」位置にして下さい。



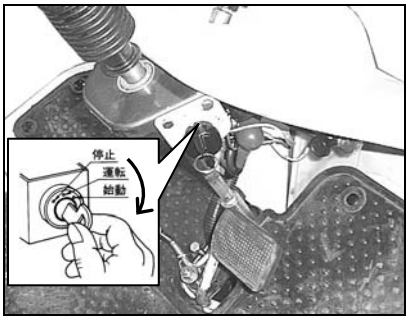
⑥刈高調整レバーを「移動」位置、ナイフクラッチレバーを「切」位置にして下さい。

参考；
ナイフクラッチレバーは刈高調整レバーと連動しています。刈高調整レバーを「移動」位置まで移動させるとナイフクラッチレバーも連動して「切」位置まで戻ります。



⑦変速レバーが中立「N」位置にあることを確認した後、チョークレバーを引いて、「閉」N の位置にして下さい。

⑧スロットルレバーを 低 と 高 の中間位置にして下さい。

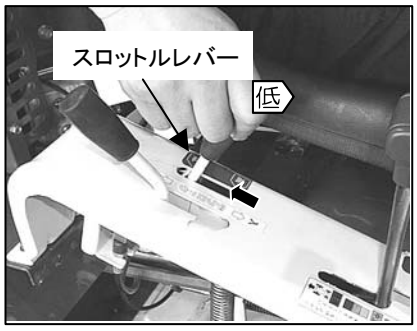


⑨エンジンスイッチにスイッチキーを差し込み「入(RUN)」位置から続けて「始動(START)」位置へキーを回すとエンジンが始動します。

⑩エンジンが始動したら直ちにキーから手を離して下さい。
キーは自動的に「入(RUN)」位置まで戻ります。

参考；

- セルモーターは大電流を消費しますので、５秒以上の連続使用は避けて下さい。
- ５秒以内で始動しない場合には、一旦キーを「切(OFF)」位置まで戻し、１０秒以上休止してから再度同じ操作を繰り返して下さい。
- エンジン回転中はキーを「始動(RUN)」位置にしないで下さい。セルモーター故障の原因となります。



- エンジンが既に暖機されている場合には、スロットルレバーを 低 と 高 の中間位置で始動して下さい。（チョーク「閉」N 位置にする必要はありません。）

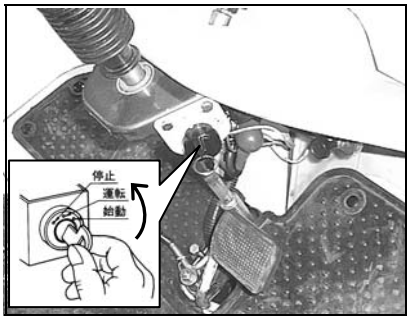
⑪エンジン始動後は、チョークを「開」 に戻しスロットルレバーを 低 位置側へ戻してしばらく(５分程度)暖機運転をして下さい。

参考；暖機運転を行うことにより、エンジン各部にオイルを行き渡らせ、エンジンの寿命を延ばします。

⚠ 警 告

暖機運転中は必ず駐車ブレーキは「ロック(駐車)」しておいて下さい。
急に動き出しケガをする恐れがあります。

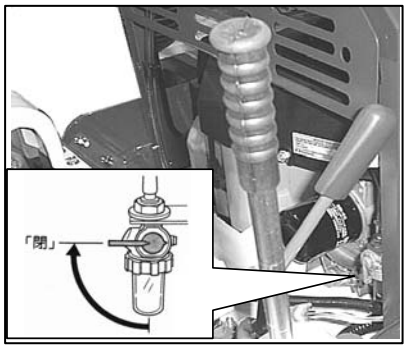
■エンジン停止のしかた



⑫スロットルレバーを手前に引いて 低 位置にして下さい。

⑬キーを「切(OFF)」位置にしてエンジンを停止して下さい。

⑭キーをエンジンスイッチから抜いて下さい。



⑮最後に燃料コックを「閉(OFF)」位置にして下さい。

走行・変速・停止(駐車)のしかた

⚠ 警告

- **所有者以外の人には使用させないで下さい。**
- 走行するときは、周囲の安全を確かめてから発進して下さい。
- 側溝や路肩の走行は本機の重みで地盤が崩れる恐れがあります。地盤が軟弱な場所での使用は十分に注意して下さい。
- 勾配が 10゜以上の傾斜地での使用は、転倒・暴走の危険があります。このような場所での使用はしないで下さい。

■走行のしかた



①エンジンを始動させて下さい。
〈11 頁エンジン始動のしかた参照〉

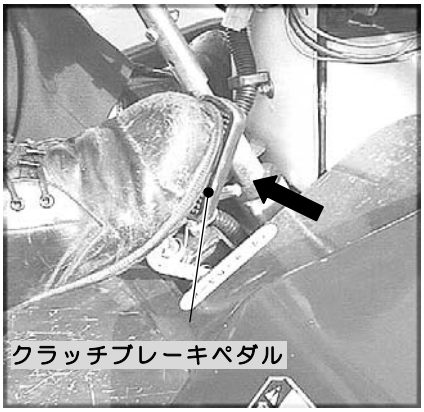
②スロットルレバーを高速 高 側へ倒しエンジンの回転を上げて下さい。



③変速レバーを所要の変速位置に確実に入れて下さい。

参考；
後進「R」が 1 段、前進が 4 段です。
「低速」①→②→③→④「高速」
の順で速度が速くなります。安全のため、「低速」側で走行を開始して下さい。

④は移動用です。作業には使用しないで下さい。



④クラッチブレーキペダルを深く踏み込み、駐車ブレーキのロックを解除して下さい。

⑤クラッチブレーキペダルをそのままゆっくりと戻していくと発進します。

⚠ 注意

●不確実な変速の操作(ギアチェンジ)はギア抜けの恐れがあり大変危険です。

●ギヤが入りにくい時には無理に入れずに、クラッチブレーキペダルを「入」方向へ少し動かしてから再度、変速の操作をおこなって下さい。

■変速のしかた



① クラッチブレーキペダルを踏み込み、本機を停止させて下さい。

⚠ 注意

●走行させながらの変速操作は危険なだけでなく、故障の原因となります。

●傾斜地での変速操作はしないで下さい。暴走等ケガの原因となります。

②発進時と同じ要領で変速操作を行い、再発進して下さい。

■停止（駐車）のしかた



①スロットルレバーを低速 〈低〉 位置にしてエンジン回転を落として下さい。

参考；

緊急時には、まずクラッチブレーキペダルをいっぱい踏み込んで下さい。走行クラッチが切れ続けてブレーキが掛かる一連の操作が行えます。

⚠ 警告

クラッチブレーキペタルはブレーキがかかる位置まで一気に踏み込んで下さい。
ゆっくりと踏み込むとクラッチが切れ、ブレーキが利き始めるまでに瞬間的に中立「N」位置になります。特に傾斜地での操作については十分に注意して下さい。



②クラッチブレーキペダルを踏み込み、本機を停止させて下さい。この際、変速レバーは前進「①」又は後進「R」位置に入れておいて下さい。

ブレーキのかかった状態で、クラッチブレーキペダルのアーム部にロックレバーを掛け駐車して下さい。

⚠ 注意

●本機は平坦で、周辺に障害となる物がない広い場所に駐車して下さい。
やむを得ず緩斜面に駐車する必要がある場合にでも、傾斜に対して上下ではなく、等高線上に沿って駐車して下さい。（いずれの場合にも、本機が不意に動き出す事の無い様、必ず市販の輪止め等を使用するようにして下さい。）

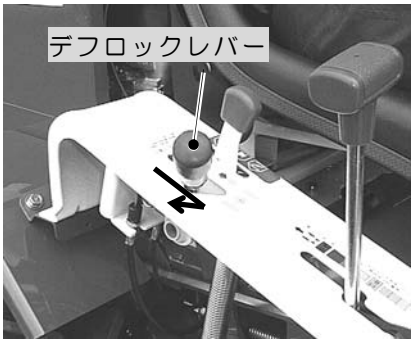


③ ②の状態（変速レバーが前進「①」又は後進「R」位置で且つクラッチブレーキペダルがロックされている）のまま、エンジンを停止して下さい。

＜13 頁エンジン停止のしかた参照＞

④スイッチキーをエンジンスイッチより抜いて下さい。

デフロックレバー操作のしかた



①通常は「切」位置にしておいて下さい。
ぬかるみや急な坂でデフロックが必要な場合にのみレバーを「入」位置にして切り欠きに掛け「ロック」して下さい。

②ぬかるみ等からの脱出後は必ずデフロックレバーは「切」位置に戻しておいて下さい。

⚠ 注 意

- デフロックレバーは、本機の積み降ろし時、緩斜面作業時、地盤の軟弱な場所、後輪の片方が空転して直進し難い場合にのみ使用し、その他には使用しないで下さい。
- デフロックの切り忘れ又は平坦地（条件のよい場所）での使用は、旋回時に内側のタイヤをひきずり、旋回半径が大きくなるばかりでなく、タイヤの片減り等本体各部（特にミッション内部）にも高負荷がかかり、故障の原因となります。

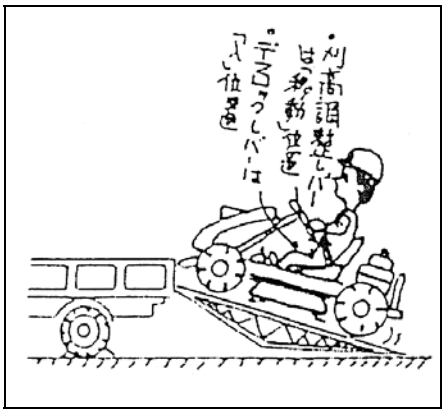
トラックへの積み降ろしのしかた

⚠ 警 告

●必ずブリッジを用いてください。本製品を吊っての積み降ろし（ユニック車の使用等）はフレーム変形等不具合の原因となるばかりでなく、転落等大変危険です。絶対に行わないで下さい。

●ブリッジの途中で停止しないでください。特に後荷重の場合には再発進する際に前輪が浮き上がる場合があり危険です。積み降ろしは低速で一気に行って下さい。
●使用するトラックは荷台に天井(幌)のない物にして下さい。積み降ろし時、天井の高さによっては作業者と衝突する恐れがあります。
●平坦で安定した場所を選び、且つ公道では行わないで下さい。
●使用するトラックは本製品の総重量と運転者の体重の総和に耐えうる物として下さい。
●複数で作業をする場合には事故防止の為、トラック運転者との合図を予め決めておいて下さい。●夜間の積み降ろし作業は危険です。やむを得ない場合には、十分な照明を得られる場所を選んで作業を行って下さい。特に、ブリッジとタイヤとの位置関係が作業者から確認し難いと転倒の危険があります。
●トラックはエンジンを止め、サイドブレーキを引いてタイヤには輪止めをして下さい。
●刈高調整レバーは必ず「移動」位置にして下さい。ナイフがブリッジと接触して転倒する恐れがあります。
●デフロックレバーは必ず「入」位置にしてブリッジ上で操作しないで下さい。
●ブリッジのフックはトラックの荷台に段差のないよう、又外れないように確実に掛けて下さい。
●本製品左右のタイヤがそれぞれブリッジの中央に位置するようにして下さい。
●荷台上ではエンジンは停止し、燃料コックは「閉」、キースイッチは抜いておいて下さい。
●使用するロープは十分に強度のある物で本製品を確実に固定し、荷台上に確実に固定できる物を使用して下さい。

■積み降ろしのしかた



①周囲に危険物のない、平坦な場所を選んで下さい。

②基準にあったブリッジを使用して下さい。

③スロットルレバーは「高」、「低」の中間位置にして下さい。

④積み込む場合は「前進」、降ろす場合は「後進」位置でどちらも低速で行い、その他の位置には入れないで下さい。

参考：ブリッジ基準

ブリッジは基準にあった、十分な強度のあるものを使用して下さい。

●長さ…トラック荷台の高さの３.５倍以上あるもの。(軽トラックには７尺が目安)
● 幅 …本機の車輪幅にあったもの。
●強度…本機重量､及び作業者の体重の総和に十分絶え得るもの。
●スリップしないように表面処理が施してあるもの。

《上手な作業のしかた》

草刈作業のしかた

⚠ 警 告

●刈草は本機右側のナイフ交換用カバーから吐き出されますが、石塊、針金、空き缶等の異物は刈取り部全周より飛散し、周囲に甚大な被害を及ぼす恐れがあります。建物の近く又は異物が多い圃場では作業前にこれらの異物は取り除き、高刈りをするか作業範囲内に人（特に子供）、車両等が入り込まないよう、草刈り中である旨の立て札やガードロープを張る等して、半径１０m以内にこれらのものを近づけないで下さい。

●圃場内の障害物、側溝、軟弱な路肩、傾斜(限界傾斜角度１０°)のあるところ、地面の凸凹等危険な場所には目印を立てて誤って接近しないように注意して下さい。

●傾斜地での作業では、本機の上側（山側）に立つ事は特に危険です。足を滑らせると回転するナイフに巻き込まれ、大怪我をする恐れがあります。

●転落や衝突事故を防ぐため、建物、川やガケ、人のいる方向に向かっての作業は行わないで下さい。

●ナイフにからみ付いた草や針金その他の異物を取り除く際には、必ずエンジンを停止してから行って下さい。

⚠ 注 意

・作業衣は、長袖の上着に裾を絞った長ズボンを着用し、滑り止めのついた長靴や帽子又はヘルメット、メガネを必ず着用して下さい。

・切り株、石、針金、空カン、棒切れ等の異物は作業前に取り除いて下さい。

・約７０mm 以上の段差乗り越しは必ずブリッジを使用して下さい。高速での段差乗り越しは、転倒事故や本機故障の原因になります。

・前輪が穴や溝に落ち込んだ場合は、ハンドルをむやみに回さず、必ずエンジンを停止した上で本機を持ち上げて脱出して下さい。むやみなハンドル操作は本機故障の原因になります。

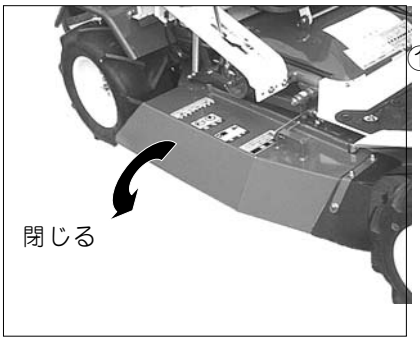
・走行中、作業中の切り株、縁石等への前輪衝突は本機の故障の原因となります。十分に注意して下さい。

・<u>枝下作業時や斜面作業時には、枝との挟まれ・転倒等に細心の注意を払って</u>下さい。

参考:

●初めて本機を使用するときは石等の異物のない平坦地を選び、ゆっくりと刈り跡が少し重複するようにまっすぐ刈って下さい。

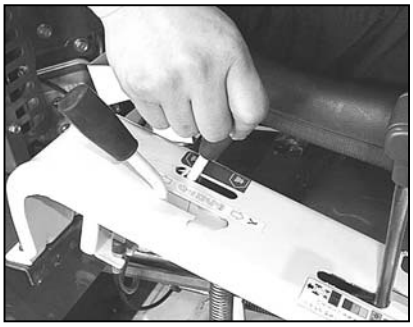
●刈取られた草は本機右側へ排出されます。障害物の枕刈は、木、柱、塀及び他の障害物を常に本機の左側に位置させて下さい。（左旋回して下さい）



①本機右側のナイフ交換用カバーを一番下まで閉じて下さい。

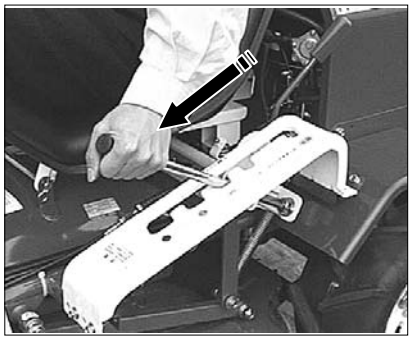
⚠ 警 告

ナイフ交換用カバーを開けたままでの作業は絶対にしないで下さい。石等の異物が飛散し、周囲に危害を及ぼす恐れがあり大変危険です。

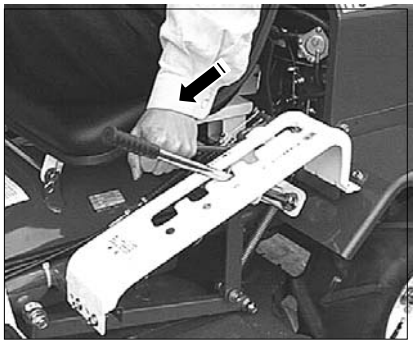


②エンジンを始動させて下さい。
〈11 頁エンジン始動のしかた参照〉

③スロットルレバーを高速〔高〕位置にしてエンジン回転を上げて下さい。

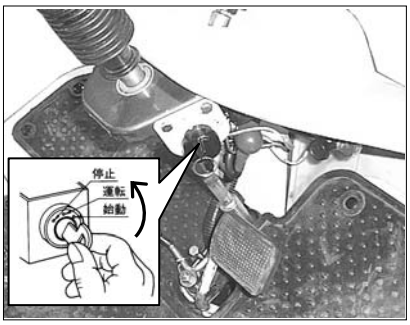


④作業状況に合わせて刈高調整レバーを①･②･③･④いずれかの位置に確実に入れて下さい。
〈各位置の刈高さの目安は 8 頁…各部のはたら参照〉



⑤ナイフクラッチレバーを「入」位置までゆっくりと倒して下さい。
◇◇ナイフが回転しますので十分に注意して下さい◇◇
◇◇急激に「入」位置まで入れないで下さい◇◇

⑥〈14 頁…走行のしかた〉を参照し、本機をスタート、作業を開始して下さい。



⑦作業の終了は上記と逆の操作手順で行って下さい。
特にナイフクラッチを戻す時には、まず確実にナイフクラッチを「切」へ戻し、その後に刈高調整レバーを移動の位置まで上げて下さい。

⑧エンジンを停止して下さい。
〈15 頁…停止(駐車)のしかた参照〉

参考；

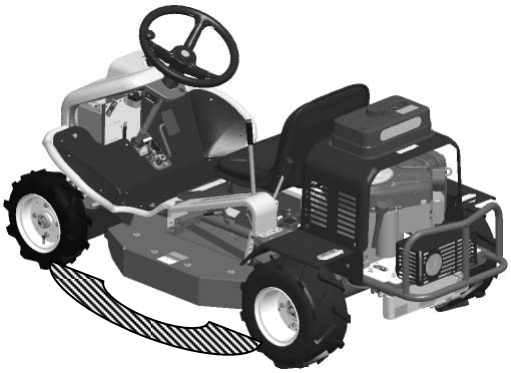
- ●本機の停止後、刈高調整レバーを「移動」位置まで戻せばナイフクラッチレバーも連動して「切」位置まで戻りますが、通常は常に上記⑦の操作に従い作業を行って下さい。
- ●刈高調整レバーが「移動」位置ではナイフクラッチレバーの操作はできません。
- ●作業終了後、本機から離れる時には必ずエンジンは停止し、キーを必ず抜いて所有者で保管して下さい。

⚠ 警 告

●作業中、障害物に当たった時はすぐにエンジンを停止し、異常があればすぐに修理をして下さい。修理しないで再始動すると思わぬ事故につながります。

●ナイフの回転中は左右両サイドカバー内側一杯までナイフがきますので、作業中は絶対に草等をナイフカバー内に足等でけり入れないようにして下さい。〈下図参照〉



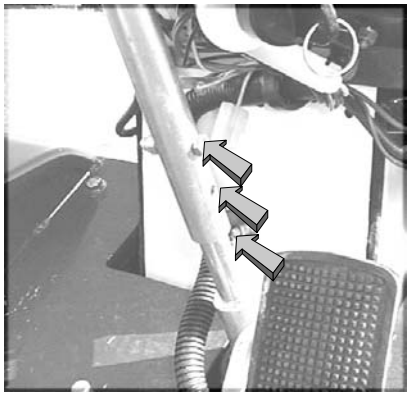


●エンジンに草・木の葉等を堆積させないで下さい。これらの可燃物が堆積すると火災の原因になったり、本機を破損する場合があります。

・草の量が多く、エンストするようであれば、作業速度を落とすか、刈高さを１段上げるか数回に分けるかして刈るようにして下さい。

・草が濡れている時、又は雨天の場合などは本機がスリップしたり草がナイフカバー内等に詰まって無理をします。このような場合には作業を中断し、草が乾いてから作業を開始して下さい。雨天の作業は危険です。

体格に合わせたハンドル高さの調整



ハンドルの高さは、使う人の体格によって上下３段階で調整することができます。

ハンドルシャフトを固定しているボルトとUナットで調整して下さい。

《各部オイルの点検・交換・注油のしかた》

⚠ 注意

● **出荷時本機にオイルは入れてありますが、始めて本機をご使用になる前には、必ず指定の箇所に指定のオイルが指定の量だけ入っているかを確認して下さい。**

・定期的なオイルの交換は、本機を常に最良の状態で使用するために是非必要です。

・各部オイルの点検・交換をする場合には必ず本機を平坦な広い場所に置いてエンジンを暖機運転した後停止し、本機各部が触っても熱くない程度に冷えるのを(約 5 分以上待ってから作業を行って下さい。

…エンジン停止後、すぐに作業を行うと…

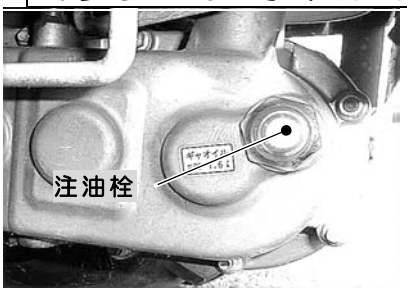
● **エンジン本体各部はかなりの高温になっており、火傷の危険があります。**

・エンジン停止直後はエンジン各部、ミッション各部にオイルがまだ残っており、正確なオイル量が示されません。

・安全のため作業が終了するまで点火プラグキャップは点火プラグより外し、スイッチキーもエンジンスイッチから外しておいて下さい。

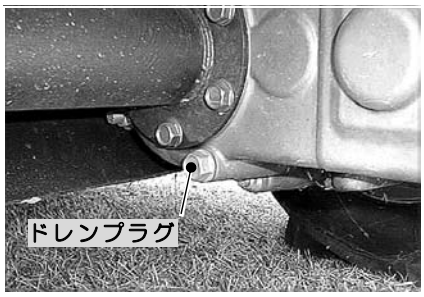
■交換後の廃油は適切な処理をして下さい。■

ミッションオイルの点検・交換・注油



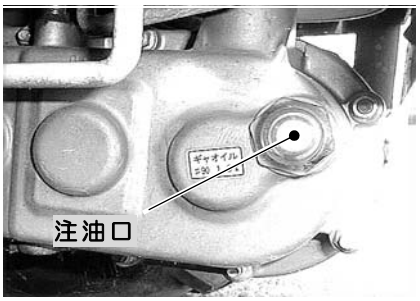
◎点検･･･

ミッションケース左側面上部の注油栓より確認して下さい。注油栓を通してミッションオイルが目視で確認できれば(注油口いっぱいまで)ほぼ規定量のミッションオイルが入っています。



◎交換･･･

オイルを受け取る適当な容器を用意し、初回は 20 時間目、それ以降は 100 時間を目安にミッションケース左側下部のドレンプラグ(排油栓)を外して行って下さい。



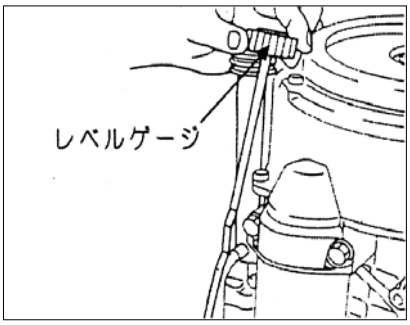
◎注油･･･

ドレンプラグ(排油口)を取り付けた後、ミッションケース左側面上部の注油口よりミッションオイル(＃90)を 1.6 ℓ入れて下さい。

●**注油後は、オイル漏れのないように注油栓をしっかり締め付けて下さい。**

●**注油栓のガスケットが取り付け面に接触してから更に 3/4 回転ねじ込んで下さい。**

エンジンオイルの点検・交換・注油



◎点検…

①給油栓についているレベルゲージで、エンジンオイルの質・量を毎日、もしくは 8 時間使用毎に点検して下さい。
〈11 頁…エンジン始動のしかた参照〉

②常にレベルゲージの上限までエンジンオイルは入れておいて下さい。

◎注油・交換…

参考；

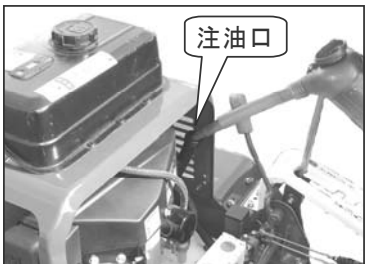
●初回は **5** 時間目、それ以降は **25** 時間(オイルフィルタ付は **50** 時間)運転毎、もしくはシーズン毎のいずれか早い時期を目安に交換して下さい。

●**但し、負荷条件の厳しい作業条件や高温環境下で連続長時間使用される場合は、上記時間に達する前、早め(約半分の時間)のエンジンオイル及びフィルタの交換をお奨めします。**



①オイルを受け取る適当な容器を用意し、オイル給油栓を外した後、エンジン後部のドレンボルトを工具を使ってゆるめて下さい。廃油口より下方に廃油します。

②オイルが抜き終わったら元の通りにドレンボルトをしっかりと締め付けて下さい。

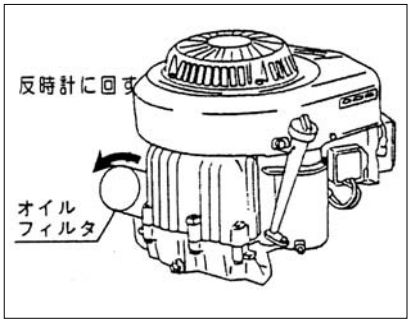


③11 頁を参照しながらエンジンオイルを注油して下さい。
〈エンジンオイル量は 36 頁《仕様》参照〉

④エンジンオイル注油後、オイルがにじみ出ないよう、注油栓はしっかりと締め付けておいて下さい。

オイルフィルタの交換　＊該当機種のみ

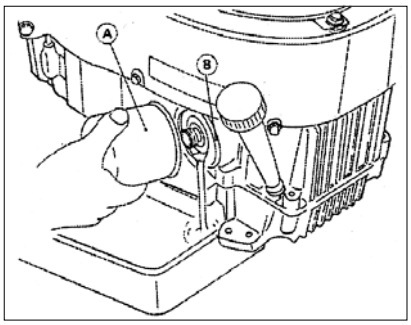
参考；必要に応じてエンジンオイルを排出した後、以下の要領に従ってオイルフィルタの交換をして下さい。



①フィルタⒶを反時計方向に回して取り外して下さい。

②新しいフィルタのガスケット部分に新しいエンジンオイルを塗布して下さい。

③フィルタを時計方向に回し、まずガスケットが取付け面Ⓑに接触し始めるところまでねじ込みます。更にそこから 3/4 回転ねじ込んで下さい。



④給油口から新しい規定のオイルを給油して下さい。
〈11 頁…エンジン始動のしかた参照〉
⑤レベルケージでオイル量を確認後、給油栓をしっかりと締めて下さい。〈22 頁…エンジンオイル点検･交換･参照〉
⑥エンジンを低速で約２分間運転した後、オイルフィルタ取り付け面にオイルのにじみがないか確認して下さい。
⑦エンジンを止め、オイル量を再度チェックし、必要であれば補給して下さい。

参考；

・オイルフィルタの交換は工具をつかわず、手で行って下さい。
・オイルフィルタは **50** 時間毎(エンジンオイル **2** 回交換毎)に交換して下さい。

《各部の点検・整備・調整のしかた》

本機各部を点検・整備・調整する時は、本機を周辺に障害となる物がない平坦地に置き、必ずエンジンを停止してキーを抜き、エンジン各部が冷めるのを待って作業を開始して下さい。

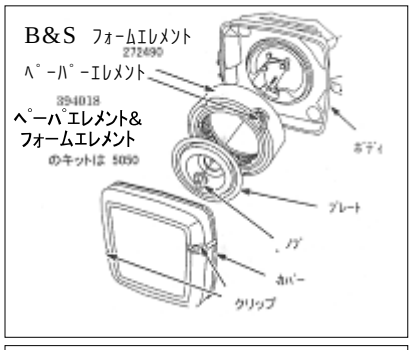
エアクリーナの清掃のしかた

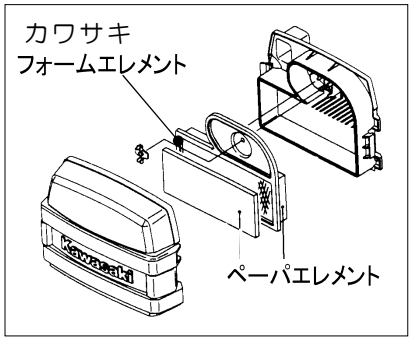
⚠警告

エアクリーナ・リコイルスタータが草屑等で目詰まりを起こしたまま作業を続けると、出力不足や燃料消費が多くなるばかりでなく、排ガス温度が上昇して燃料への引火火災の原因となり大変危険です。必ず定期的な清掃を励行して下さい。

エアクリーナを外したままエンジンを始動させないで下さい。ゴミやホコリを吸い込み、エンジン不調や異常摩耗の原因となります。

①リップを取り外し、カバーを外して下さい。
②ホコリやゴミを気化器側に入れないように注意してフォームエレメントとペーパエレメントを取り外して下さい。
③フォームエレメントは中性洗剤で洗浄後よく絞り、乾燥させて下さい。





④カートリッジ(ペーパエレメント)は軽く叩くか､内部からエア吹きしてホコリやゴミを落として下さい。
⑤ホース内部の汚れをウエス等でふき取り､元の通りに組み付けて下さい。

参考；

・ペーパエレメントの汚れがひどい場合には新品と交換するか、石鹸液で洗浄(ふり洗い)した後水洗いし、よく乾かして下さい。
・洗浄時、フォームエレメントを強く引っ張ったりもんだりしないで下さい。エレメントが破れます。
・ペーパエレメントを叩く時にはろ紙を傷付けないように注意して下さい。
・ろ紙をブラシでこすらないで下さい。
・乾燥させる時、熱風をあてるとペーパエレメントの接着部が痛む事があります。低めの温風で乾かすか、自然乾燥させて下さい。

⚠ 注 意

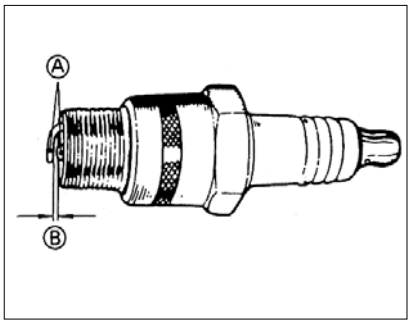
・ペーパエレメントの汚れがひどい場合には新品と交換するか、石鹸液で洗浄(ふり洗い)した後水洗いし、よく乾かして下さい。
・フォームエレメントは強く引っ張ったりもんだりしないで下さい。エレメントが破れます。
・ペーパエレメントを叩く時にはろ紙を傷付けないように注意して下さい。
・ろ紙をブラシでこすらないで下さい。
・乾燥させる時、熱風をあてるとペーパエレメントの接着部が痛むときがあります。低めの温風で乾かして下さい。

エアクリーナの清掃、交換時期の目安				
フォームエレメント	清掃	毎回作業前	交換	１００時間毎
ペーパエレメント	清掃	毎回作業前	交換	１００時間毎

⚠ 注 意

●チリやホコリの多い作業環境での使用は頻繁に清掃するように心がけて下さい。
●エアクリーナが目詰まりしたまま使用を続けるとエンジン焼付の原因となります。

点火プラグの点検・調整のしかた



①プラグレンチで点火プラグを外し、電極部分Ａにカーボンが付着していたらワイヤブラシでこれを除去し、湿りがあればこれを拭き取って下さい。
②中央陶器部にヒビワレ、また電極部分に消耗が認められた場合には点火プラグを新品と交換して下さい。
③点火プラグの電極隙間Ｂを 0.7～0.8mm に調整して下さい。

参考；
締め付け時は、始め手でねじ込んでからプラグレンチを使用して下さい。
始めからプラグレンチで締め込むと、ネジ山を潰すことがありますので注意して下さい。

＜点火プラグ基準…36 頁《仕様》参照＞

燃料パイプ点検のしかた

⚠危 険

くわえたばこや裸火照明での作業禁止



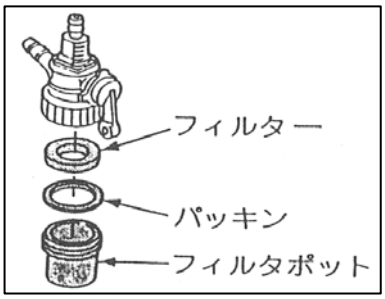
・燃料パイプなどのゴム製品は、使わなくても劣化します。締め付けバンドと共に３年ごと、または傷んだ時には新品と交換して下さい。
・パイプ類や締付けバンドが緩んだり、傷んだりしていないか常に注意して下さい。
・交換時、パイプ内にホコリやチリが入らないように注意して下さい。

燃料コックの清掃のしかた

●５０時間使用ごとに燃料コック内部を清掃して下さい。
●作業はホコリやチリのない清潔な場所で行って下さい。
●作業は燃料コックを「閉(OFF)」にしてから行って下さい。

⚠危 険

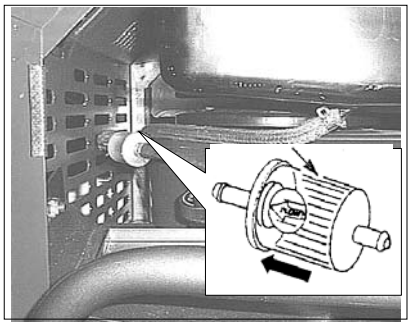
くわえたばこや裸火照明での作業禁止



①フィルタポットを反時計方向に回して取り外し、フィルタとパッキンを取り出して下さい。
②フィルター･パッキン･フィルタポットを灯油等の引火性の低い灯油等の溶剤で洗い、乾燥させて下さい。
③フィルター･パッキン･フィルタポットを元の通りに確実に組み付けて下さい。

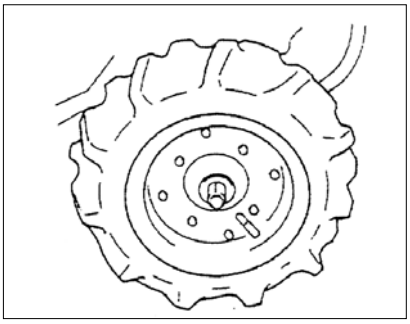
参考；

燃料コック清掃の際､シートを立てると作業が楽になります。



(該当機種のみ)
インライン燃料フィルタはシーズン毎もしくは必用に応じて早めに交換して下さい。これの分解・清掃はできません。交換時には挿入方向に注意して下さい。
詳しくは販売店にお尋ね下さい。

タイヤ空気圧の調整のしかた



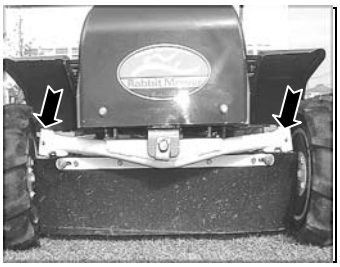
・前後輪のタイヤ空気圧のチェックを下表に従って行って下さい。
・左右のタイヤの空気圧が均等になっていないと作業中ハンドルを取られる恐れがあります。

	タイヤサイズ	空気圧kg/ｃ㎡
前　輪	3.50-7	1.2
後　輪	16×7.00-8	1.4

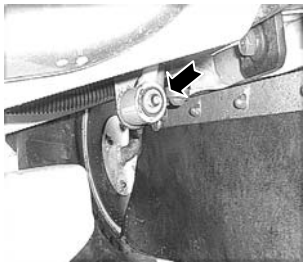
各部への注油のしかた

●約 30 時間毎にグリース又はエンジンオイル(＃30)を操作しながら行って下さい。
注油を怠ると、油切れにより操作が重くなり、破損する恐れもあります。

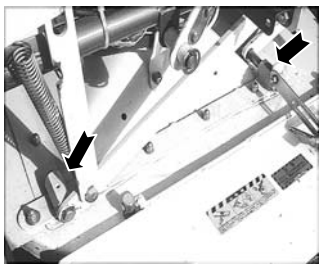
ｷﾝｸﾞﾋﾟﾝ(ｸﾞﾘｰｽ)



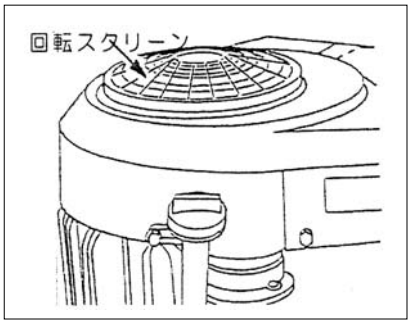
ｸﾗｯﾁﾌﾞﾚｰｷﾍﾟﾀﾞﾙ支点



上下ﾘﾝｸ支点(左右 4 ヶ所)



エンジン冷却系の清掃のしかた



① 回使用前に回転スクリーン上及びタンクブラケット内部に堆積した泥・草屑等の異物を取り除いて下さい。また、必要に応じてタンクブラケット内部をエア吹きして下さい。

② 作業終了後は、清掃のために取り外したカバー類を必ず元通りに取付けて下さい。

参考；

・エア吹きする時はシートを立てたほうが草屑、ゴミ等が排出されやすくなります。

・同時にＨＳＴファンカバー周辺に堆積した草屑等も取り除いて下さい。
そのまま使用を続けると、ＨＳＴオイル温度の上昇により、ＨＳＴ本来の性能が発揮できなくなります。

⚠ 注 意

・各パーツはエンジンが冷えてから取り外し、清掃後は各パーツを全部取り付けないうちは、エンジンを始動させないで下さい。

・エンジン冷却系統に草屑等が堆積したまま作業を続けると、オーバヒートの原因となるばかりでなく、エンジン温度の上昇により、火災の原因となります。

・回転スクリーンはエンジンとともに回転します。回転中のスクリーンに手等を近づけないで下さい。ケガをする恐れがあります。

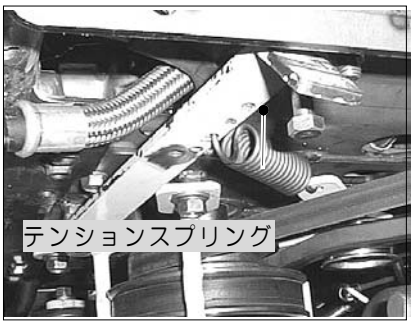
各部ベルト・ワイヤ・ロッド調整のしかた

⚠注 意

□ 各ワイヤを調整する前には必ず本機を平坦な広い場所においてエンジンを停止し、キーを抜き、駐車ブレーキを掛けた後、十分安全を確認して行って下さい。

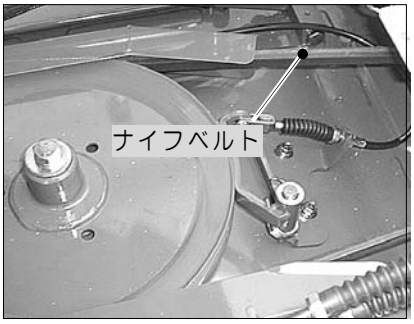
□ ベルト及びナイフブレーキの調整は、シートブラケットを外した状態で行って下さい。

□ 作業方法が不明の場合には、製品お買い上げの販売店までご相談下さい。（この場合、有料となる場合があります。）



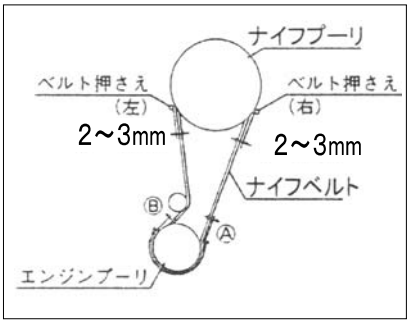
■走行ベルト調整

□走行ベルトは常に張られた状態にあります。
走行中ベルトがスリップする場合には左図を参考にテンションスプリングの引位置を変えてベルトの張りを調整して下さい。〈ベルトサイズは 36 頁…《仕様》参照〉



■ナイフベルト調整

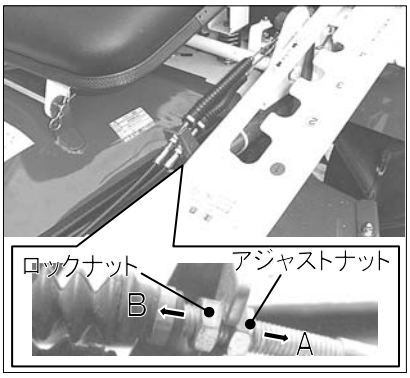
□ベルトに損傷がないか目視点検してください。
ヒビ、摩耗等の損傷があれば新品と交換して下さい。
〈ベルトサイズは 36 頁…《仕様》参照〉



■ベルト押え調整

□新しいベルトと交換した場合には以下の要領で調整して下さい。
①ベルトはプーリの溝より少し浮く程度に両ベルト押えで押えて下さい。
②ナイフプーリ側のベルト押えとベルトの隙間を約 2～3mm にセットして下さい。
③エンジンプーリ側のベルト押えとベルトの隙間Ⓐを約 2 ～3mm、Ⓑを約 10mm 程度にセットして下さい。

参考；
・上記①はナイフクラッチレバーを「㊁」位置で、②及び③は「㊀」位置で行って下さい。



■ナイフブレーキ調整

□ナイフはナイフクラッチレバーを「㊁」位置にすると約６秒以内で停止します。停止しない場合は、ブレーキワイヤのアジャスタをⒶ方向に移動して調整して下さい。
（ブレーキの引きずりは本機故障の原因となります。）
調整後はロックナットで確実に固定して下さい。
□調整できない場合はブレーキライニングが摩耗しています。販売店に交換を依頼下さい。（有償となります）

⚠ 危 険

●性能維持に限らず、特に制動面に関する定期点検は安全性維持のためにも不可欠です。乗用の場合には重大な事故につながる危険もありますので、必ず年次点検表に従った点検を少なくとも年に一回は製品お買い上げの販売店にご依頼下さい。(有償)



■駐車ブレーキ調整

①駐車ブレーキはミッションの左側後部にあり、これに接続されているブレーキロッドで調整して下さい。
②調整は駐車ブレーキペダルを一杯に踏み込んだ時（ペダルをロックした時）後輪が「ロック」するようにブレーキロッド後部のアジャストナットで調整します。
③アジャストナットを時計方向に半～１回転ずつ回しながら調整して下さい。締め込んでいくと早く効き始め、反対に弛めると効きが遅くなります。

⚠警 告

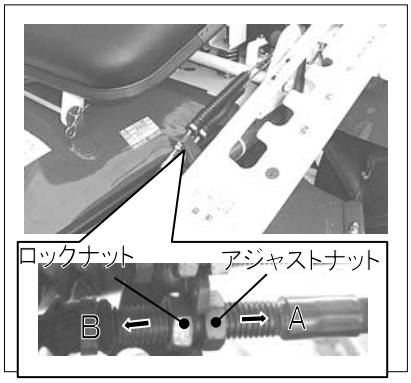
●ブレーキシューも消耗します。上記の方法では調整が取れない場合には、ブレーキシューの摩耗が考えられます。販売店に交換をご依頼下さい。又安全のため、使用時間が１００時間又は３年のいずれか早いほうで定期的に交換をして下さい。交換の際にはUナット（メック付）、割ピンも同時に交換します。(ブレーキジョイントの取付け状態も同時に確認下さい)

●駐車ブレーキ先端での遊びが 15～20mm 程度になるよう調整し、(適度な遊びがないとブレーキのひきずりの原因になります)調整後はロックナットを確実に掛けて下さい。

●ベルトも消耗します。異常があれば新品と交換して下さい。調整は初回８時間目、以降５０時間運転毎に行って下さい。

●駐車ブレーキ調整後は、必ず広く平坦で障害物の無い場所で、ブレーキの効き具合を確認しておいて下さい。（確認の方法は ４ 頁又は ９ 頁の該当項目参照）

■ナイフクラッチワイヤ調整



左図を参考にナイフクラッチワイヤの中間アジャストナットで調整して下さい。

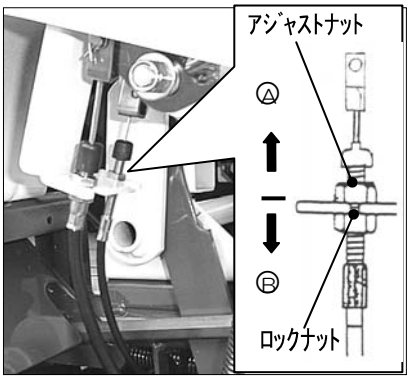
■ナイフベルトの張りが弱い場合。

…アジャストナットをⒷの方向へ…

■ナイフベルトの張りが強い場合。

…アジャストナットをⒶの方向へ…

■デフロックワイヤ



左図を参考にデフロックワイヤのアジャストナットで調整し、調整後は確実に作動するか確認して下さい。

■デフロックされない場合。

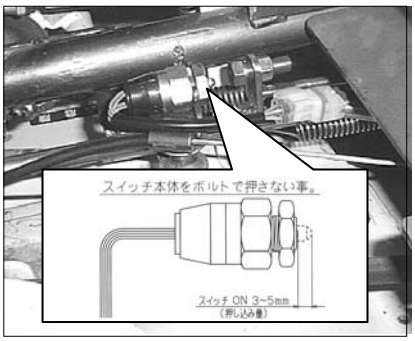
…アジャストナットをⒶの方向へ…

■デフロックが解除されない場合。

…アジャストナットをⒷの方向へ…

参考；

デフロックレバーが「切」位置(解除)の時、レバー根元での遊びが 1～3mm 程度になるよう調整して下さい。調整後はいずれもロックナットを確実に締め付けておいて下さい



■セーフティースイッチ調整

スイッチ先端が 3.0～5.0mm の範囲で押し込まれたときに作動するようになっています。この範囲以外でスイッチ先端が押し込まれた場合にはエンジンが始動しないばかりでなく、特に押し込みすぎた場合にはスイッチ本体が損傷し、ペダルを「ロック」しなくてもエンジンが停止しない等の不具合が発生する場合があります。調整は左図を参考にシートブラケットを立てて行います。まずペダルを「ロック」し、相手ボルト先端の出面で上記数値になるよう調整して下さい。

●クラッチブレーキスイッチは、シートブラケットの下右側に、ナイフクラッチスイッチは刈高調整レバー根元にあります。

●調整後は相手ボルトをロックし、シートは元の位置に戻してノブボルトをしっかり締め付けておいて下さい。

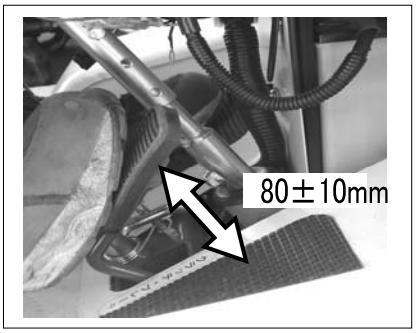


図 1

■走行ロッド調整

① 図 1 を参考にクラッチブレーキペダルをロックレバーで固定した状態から、ロックレバーを解除し、ゆっくりとクラッチをつないでいきます。

②本機が動き始めたときのペダル位置が、固定した状態から 80±10mm 位置でつながるのが標準です。<図 1 参照>

③上記寸法以外でつながる時は、走行ロッドのアジャストナットで張りを調整して下さい。<図 2 参照>

●走行ロッドの調整はシート下のシートブラケットを外し（3 本の M8 ボルトで固定されています）行います。

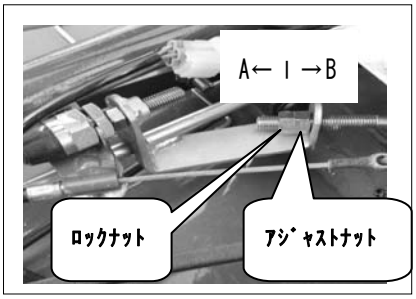


図 2

■80±10mm 以下でつながる場合
（走行クラッチの切れが悪い場合）
・・・アジャストナットを B の方向へ・・・

■80±10mm 以上でつながる場合
（負荷がかかるとﾍﾞﾙﾄがスリップし本機が停止する場合）
・・・アジャストナットを A の方向へ・・・

●いずれも調整後はロックナットを確実に締付け、シートブラケットを確実に取付けて下さい。

寒冷地での注意

□ 冬季は、使用後必ず本機に付着した泥や異物を取り除き、コンクリートか硬い乾燥した路面上に駐車して下さい。付着物が凍結して故障の原因になります。

□ 又、凍結して運転不可能になった場合には、無理に動かそうとはせずに、凍結箇所をお湯で溶かすか、凍結が溶けるまで待って下さい。

（無理に動かした場合の故障については責任を負いかねますので特に注意して下さい。）

《長期保管のしかた》

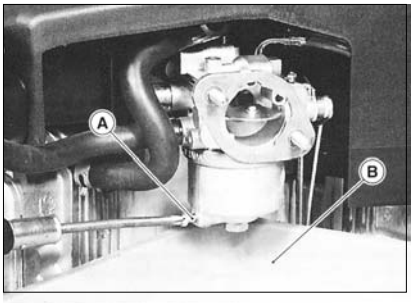
⚠警 告

・本機を保管する場合は、堅い平坦な場所で本機を水平にして下さい。
・燃料を抜く時は火気厳禁。
・風通しの良い場所で行って下さい。
・燃料タンク内のガソリンを抜く時は、エンジンとマフラが冷えてから行って下さい。
・抜いた燃料の取扱いには十分に注意して下さい。
・取り外したホース、クリップ、ドレンボルト類は元通りに取り付けておいて下さい。

⚠危 険

くわえタバコや裸火照明での作業禁止





①本機を 30 日以上使用しないときには、燃料変質による始動不良又は運転不調にならないよう、まず燃料タンク内の燃料をポンプ等で給油口から容器に抜き取り、残りの燃料を燃料コックのタンク側の燃料ホースをクリップを上側にずらして外し、残留燃料を容器Ⓑに移して下さい。次にドレンボルトⒶをドライバで弛め、気化器内の燃料を容器Ⓑに排出し、湿気のない場所を選んで保管して下さい。

②エンジン及び本機の外面をオイルの染みた布で清掃して下さい。(取り外した部品は元通りに取付けておいて下さい)

③エンジンオイルを交換して下さい。
〈22 頁…エンジンオイル交換参照〉

④各部の清掃を十分に行って下さい。特にリコイルスタータ、エアクリーナ、マフラ、HST ファンカバー、気化器付近やベルトカバー内に堆積した草やホコリをエア吹き等できれいに取り除き、サビが出ている箇所はサビを取り除いて防錆塗料を塗布しておいて下さい。

…草やホコリが堆積したまま作業を続けると…
草屑等による目詰まりでエンジンが過熱し、焼き付や、火災の原因になります。

参考：
ナイフカバー内の草屑はこれが乾かない内にホース等で加圧した水で清掃を行うと比較的簡単に洗い落とすことができます。
…この時、エンジンの電装関係や気化器、エアクリーナ、マフラ排気口に水がからないようカバーをかける等して注意して下さい。エンジン始動不良の原因になります。

⑤各給脂・注油箇所にそれぞれグリースアップ、注油をしておいて下さい。

⑥駐車ブレーキを掛けて、屋根のある風通しの良い湿気の少ない場所に本機を水平にして保管して下さい。

⑦本機にカバー等をかけてほこりがつかないようにして下さい。保管中は、定期的にタイヤ空気圧を点検し、必要に応じて空気を入れて下さい。

《ナイフの点検・交換のしかた》

ナイフの点検・交換

■作業を安全に行うため、ナイフ及びナイフステーの作業前点検をおこなって下さい。■

⚠ 警 告

・ナイフステーを含むナイフ交換に必要な部品等は全てメーカー純正品とご指定下さい。メーカー純正品以外の使用による故障・事故については保証の対象外となります。

・前回の作業時に縁石や木の根等にナイフが当たり、ナイフ及びナイフステーに曲がりや欠損が生じていないか、又摩耗がないか作業を始める前に点検して下さい。

・ナイフ及びナイフステーの摩耗、割れ、欠損等を放置したまま作業を続けると、作業中に折損して飛び出し、作業者や付近にいる人に当たったりして重大な人身事故を招く原因になります。

・ナイフは高速で回転します。少しでもナイフが欠けたり、折損したりするとそれだけで振動の原因となります。振動したまま作業を続けると危険なばかりでなく、本機各部にヒビや割れ発生の原因となり、本機寿命を著しく縮めます。

・ケガを避けるため、点検・交換は丈夫な手袋を付け、必ず製品付属の専用工具(ナイフチェンジ)を使用して行って下さい。

⚠ 注 意

・ナイフステーの交換には特殊な工具と整備技術が必要です。作業は製品お買い上げの販売店へご依頼下さい(有償)。袋ナット、ナイフステー取付ボルトの同時交換も必要です。

・ナイフの表裏入替時にはナイフ取付ボルトを、ナイフの交換時にはナイフ取付ボルトを含むその他の部品(ハードロックナット、ナットガード、ナイフカラー)も必ず同時に交換し、決して他のボルト・ナットで代用しないで下さい。

・ナイフの表裏入替と交換は必ず２枚共同時に行って下さい。片側のみの交換及び新旧ナイフの混同は異常振動の原因となります。



■ナイフの点検・交換のしかた

①エンジンを停止し、キーをエンジンスイッチから取り外して下さい。〈10 頁…エンジン停止のしかた参照〉

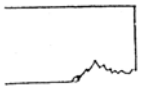
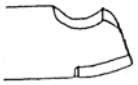
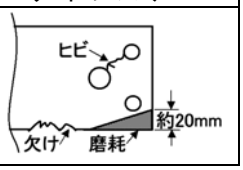
②刈高調整ハンドルで刈高さを一番高い位置にして下さい。

③ナイフ交換用サイドカバーを一杯に開け、固定して下さい。

④ナイフ及びナイフステーの取付状態を点検して下さい。

⑤ナイフ及びナイフステーの割れ、曲り、摩耗を点検して下さい。

下図の様な状態になっていればナイフの裏表を入れ替えて使用するか交換して下さい。

新　品	交　換			
				ナイフステー
				

参考；

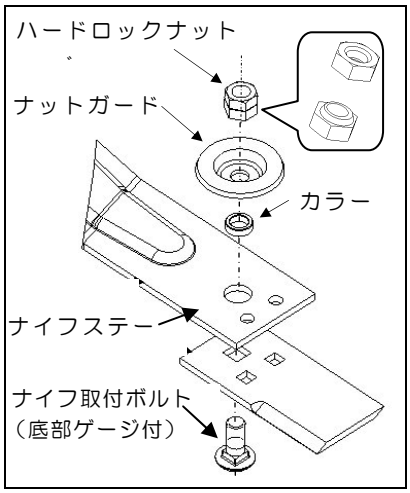
・ナイフ同様ナイフステーも消耗します。曲げ、摩耗等が認められない場合でも１００時間、若しくは２年毎のいずれか早いほうで交換して下さい。

・乾燥した土や砂を含んだ場所での使用はナイフの摩耗が早い為頻繁に点検して下さい。

・予め予備のナイフ一式をお買い求め頂き、手元におかれておくことをお奨めいたします。

■ナイフ交換のしかた

■□点検の結果、ナイフの交換(表裏の交換)が必要な場合には、下記を参考にナイフの脱着を行って下さい。□■



《本体側》

①必ずナイフチェンジを使い、ハードロックナットを弛めてナイフを取り外して下さい。(まず上段のロックナットのみにボックス又はメガネレンチを掛けこれを取り外し、その後下段のナットも同様に取り外してください。)

②表裏の入替時はナイフ取付ボルトを、ナイフの交換時にはナイフ取付ボルトを含むその他の部品も同時に交換して下さい。(交換しなかった場合、摩耗、変形、破損等で作業中ナイフが飛散する恐れがあります。)

③新しいナイフへ交換(裏返し)をした後、下側、上側の順番でハードロックナットを確実に締付けて下さい

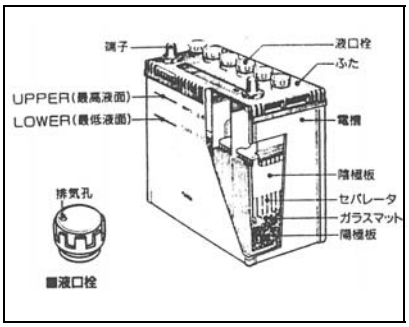
・ハードロックナットの締付トルクは「８００ｋｇｆ・ｃｍ」（７８．４N･m）です。
目安として３０ｃｍ長のメガネレンチ(ｻｲｽﾞ 22)で、約３２kgf 以上の力で締めて下さい。
・乾燥した土や砂を含んだ場所での使用はナイフの摩耗が早いため頻繁に点検して下さい。
・予め予備のナイフ、取付に必要な部品一式を手元に置かれておくことをお奨めいたします。
・ナイフ交換時には、ナイフカラーを紛失しないよう注意して下さい。

◇◇ナイフ取付ボルト裏面のゲージ(くぼみ)が摩耗してなくなれば交換時期です。◇◇

≪バッテリ保守・点検のしかた≫

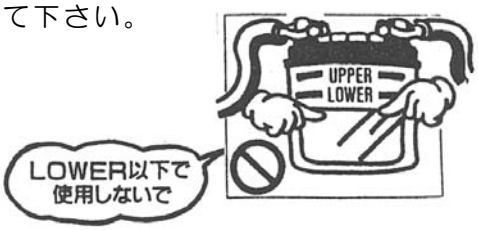
バッテリは、取扱を誤ると寿命を短くして、つまらぬ出費をしなければなりません。
正しい取扱方法で十分に機能を発揮させてください。

バッテリ液の補水・補充電



■補水のしかた

毎日の始業点検で電解液高さを確認して下さい。使用しない場合でも１ケ月に１度は電解液高さを点検して下さい。液面がＵＰＰＥＲ（最高液面）ＬＯＷＥＲ（最低液面）間の半分以下に下がっていれば精製水（蒸留水）をＵＰＰＥＲレベルまで補充して下さい。



⚠ 警 告

・バッテリは電解液をＬＯＷＥＲ（最低液面）以下にしないで下さい。
　短寿命、発熱や爆発の原因となることがあります。
・バッテリへは精製水以外は入れないで下さい。
　（希硫酸は補充しないで下さい。）
　不純物を入れた場合、発熱、発火、有毒ガス発生の
　原因となる事があります。



・精製水（蒸留水）を入れすぎると電解液がこぼれて
　金属を腐食させる原因となります。ＵＰＰＥＲ（最高液面）以上入れないで下さい。万一バッテリ液をこぼした場合には、必ず水洗いをして下さい。
・補水後は、液漏れがしないよう、液口栓をしっかり取付けて下さい。

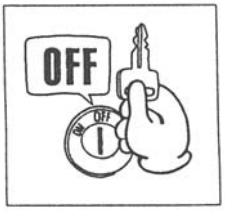
■補充電のしかた

●バッテリ液面管理を行っていてもエンジンが始動しなかったり、セルモータの回転がいつもより低くて弱い場合には、バッテリが放電していますので以下の要領に従って５～１０時間の補充電を行って下さい。

⚠ 警 告

・バッテリを取り扱うときはショートや火花、火気に注意して下さい。
・バッテリからは可燃性の水素ガスが発生しています。引火爆発の原因となりますので、バッテリの近くに火気（マッチ、ライター、タバコの火、溶接機やグラインダ等の火花、端子部分のスパーク等）を近づけたり発生させたりしないで下さい。
・帯電した体でバッテリに触れたり、乾いた布等で清掃したりしないで下さい。
　静電気による引火爆発の原因となることがあります。

・バッテリ液は希硫酸です。目や皮膚につくとその部分が侵されますので十分注意して下さい。もし事故が発生した場合は 41 頁の「事故時の処置方法」に従い処置して下さい。
・バッテリは必ず本機から取り外して下さい。電装品の損傷や配線等を傷める事があります。尚、**急速充電は補充電の方法として適当ではありません。急速充電は緊急時に限り、その他は通常充電を厳守して下さい。**



①バッテリの取り外し手順

⑴本機のエンジンを止め、スイッチキーを抜いて下さい。
⑵バッテリの搭載状態（端子の極性位置）を記録しておいて下さい。
⑶本機側の㊀ケーブル端子のボルトを緩め、バッテリの㊀端子からケーブル端子を外して下さい。
⑷次に㊉ケーブル端子のボルトを緩め、バッテリ㊉端子からケーブルを外して下さい。
⑸バッテリ取り付け金具を緩め、バッテリを水平状態で取り外して下さい。バッテリは重量物ですから注意して取り扱って下さい。

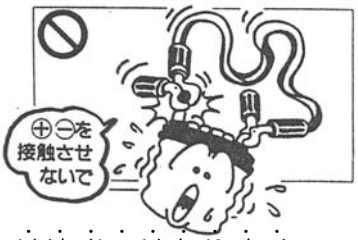


②補充電 （41 頁参照）

⑴充電器は電源がＯＦＦ(切)になっている事を確かめてからお使い下さい。ＯＮ(入)の状態でバッテリに接続するとスパークが発生し、引火、爆発の原因となります。
● ブースト(始動補助)機能付の充電器の使用は、充電器の取扱説明書に従って下さい。取り扱いを誤ると、バッテリの爆発や本機・機器損傷の原因となります。
● 充電は、風通しの良いところで行い、火気を近づけないで下さい。引火、爆発の原因となります。



⑵充電器の㊉側とバッテリの㊉、充電器の㊀側とバッテリの㊀を接続して下さい。接続を誤ると電気回路の故障や配線が焼損する原因となります。
⑶液口栓６個を全て取り外して下さい。
⑷補充電は、普通充電電流と充電時間を守って下さい。
液漏れや引火、爆発の原因となることがあります。



⚠ 注 意

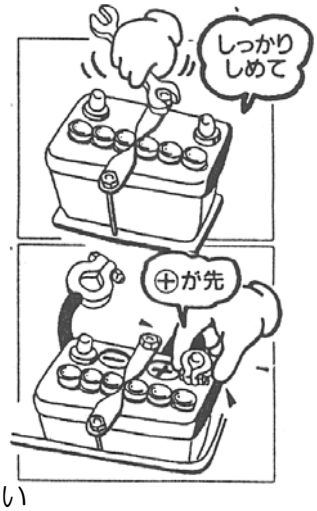
急速充電は長期間放置したバッテリを回復させるための充電には適当ではありませんので行わないで下さい。やむを得ず、急速充電を行う場合には、バッテリ定格要領の値以下の充電電流で行って下さい。

⑸補充電完了後は、液口栓６個は元の通りにしっかりと取り付けておいて下さい。

■補充電完了の目安（下記条件を満足する事）

①	電解液比重が１.２７０／20℃以上で１時間以上一定値を続けている。
②	端子電圧が１５Ｖ以上で１時間以上一定値を続けている。
③	各セルからガスが盛んに発生している。
④	予定の充電時間に達している。

③取り付け作業手順



⑴バッテリ取り付け台に異物がない事を確認し、取り外したバッテリの端子極性が同じ位置になるように取り付け台に載せ、取り付け金具でガタツキがないようにしっかりと固定して下さい。

⑵本機側の⊕ケーブル端子をバッテリ⊕端子に取り付け、緩みがないようボルトをしっかり締め付けて下さい。

⑶次に本機側⊖ケーブル端子をバッテリ⊖端子に取り付け、緩みがないようにボルトをしっかりと締め付けて下さい。

⑷ケーブル端子の金属部に、錆止めにグリースを薄く塗布すると防錆上効果的です。

● ケーブル端子が腐食している場合には、ワイヤブラシ、目の細かいサンドペーパ等で清掃して下さい。

■始動



本機への取り付けが完了したらエンジンを始動して下さい。尚、始動操作は５秒以内とし、１回で始動しない場合は１０秒位休止後、再び始動操作を行って下さい。但し、この操作を行なっても始動しない場合は、バッテリの寿命も考えられますので、バッテリや始動回路等を調べて下さい。

■バッテリの寿命について

バッテリは使用中に、その容量が徐々に低下し、寿命となります。
補充電しても性能が回復しないものは寿命です。

●寿命は次の要因によって短縮されます。
・高温（環境温度）
・使用頻度（使用が少なすぎても、多すぎても影響を受けます。）
・充電不足（アクセサリ装着のし過ぎ。発電機の故障等による供給不足。）
・過酷な使用（寒冷地での多用、充電不足での使用等。）
・保守の不備（バッテリの液面点検や補水の怠り、端子部分の緩みによる接触不良、スイッチキーの切り忘れによって、バッテリ上がりした場合。）
・過剰な充電（レギュレータの故障、完了時点を過ぎても充電を終了しないで充電し過ぎた場合。）
●寿命末期には次のような兆候が起こります。
・スタータモータの回転音がいつもより低くて弱い。
・バッテリの電解液の減りが早い。
これらの兆候が現れた時には上記に注意しながら補充電を行って下さい。
補充電後も兆候がなくならない場合には、バッテリの寿命ですので交換をお勧めします。

使用バッテリ…３０Ａ－１９Ｌ

《仕　様》（参考数値）

名　称		ラビットモアー	
型　式		ＲＭ８１Ａ	ＲＭ８１Ｂ
全長×全幅×前高(㎜)		１，７７０×９３０×９００	
刈　幅(㎜)		８２０	
重　量(kg)		２２０	
刈　高(㎜)		①１０，②３０，③５０，④７０	
ナイフ(枚)		フリーナイフ×２＆段付ステー×１	
ベルト(本)	走	ＲＣＬＢ－２９×１	
	刈	スーパーゴールド１０００　ＬＢ７５×１	
タイヤサイズ(本)		(前輪)3.50-7(Φ350)×２，(後輪)16×7.00-8(Φ400)×２	
デフロック		有	
ハンドル		丸ハンドル(上下３段調整可)	
ブレーキ		ミッション装備内拡式駐車ブレーキ	
速　度	前　進	①１．７，②２．８，③４．６，④７．０(移動用)	
(km/ｍ)	後　進	２．０	
作業能率(ａ/ｈ)		①１３，②２２，③３６	
バッテリ		30A-19L	
エンジン	名　称	カワサキ	ブリグス&ストラトン
	型　式	ＦＨ381Ｖ	バンガード 295777
	排気量(cc)	431	479
	潤滑油量(ﾘｯﾄﾙ)	1.8	1.7
	最大出力	9.6kw(13.0HP)/3,600rpm	10.3kw(14.0HP)/3,600rpm
	始動方式	セルスタータ式	
	点火プラグ	CHAMPION-ＲＣＪ８Ｙ×2 ＮＧＫ-ＢＰＭＲ6Ａ×2	CHAMPION-XC92YC
	タンク容量(ﾘｯﾄﾙ)	6.4	

※本仕様は改良のため予告なく変更する事があります。

《工具袋・同梱品明細》

No.	部　品　名	規格・寸法	個数	備　　考
1.	取扱説明書		1	
2.	品質保証書		1	販売店控
3.	両口スパナ	10×12	1	
4.	〃	14×17	1	
5.	Ｌ型レンチ	ｶﾜｻｷ:19mm B&S:22mm	1	
6.	ゴーグル	防曇タイプ	1	保護具
7.	年次点検表		1	販売店控
8.	ナイフ取付ボルト	ｶﾜｻｷ:M12 B&S:M14	2	ナイフ表裏入替時用
9.	ナイフチェンジ		1	ナイフ交換用工具

《消耗品明細》

No.	部　品　名	部 品 番 号	個数/台	備　考
1.	ナイフ＆取付ボルトセット	ｶﾜｻｷ:0247-78010 B&S:0244-78010	1	ナイフX2､取付ボルトX4､ナットガードX2､ハードロックナットX2､ナイフカラーX2のセット
2.	取付ボルトセット	ｶﾜｻｷ:0247-78210 B&S:0244-78210	2	取付ボルトX2､ナットガードX1､ハードロックナットX1のセット
3.	ナイフチェンジ	0244-52400	1	ナイフ交換専用工具
4.	ナイフ	ｶﾜｻｷ:0247-89100 B&S:0244-89100	2	
5.	ナイフステー	ｶﾜｻｷ:80-1481-817-10 B&S:0271-50100	1	
6.	ナイフカラー	ｶﾜｻｷ:80-1481-818-00 B&S:80-1483-818-00	2	ｶﾜｻｷ:M12 用 B&S:M14 用
7.	ナイフ取付ボルト	ｶﾜｻｷ:0237-50100 B&S:0207-50200	2	ｶﾜｻｷ:M12×32 B&S:M14×32
8.	ハードロックナット	ｶﾜｻｷ:0247-74600 B&S:0244-74600	2	ｶﾜｻｷ:M12 用 B&S:M14 用
9.	ナットガード	ｶﾜｻｷ:0247-51800 B&S:0244-51800	2	ｶﾜｻｷ:M12 用 B&S:M14 用
10.	袋ナット	ｶﾜｻｷ:89-1572-160042 B&S:83-1483-175-00	1	ｶﾜｻｷ:細目、M16 メック付 B&S:細目、M20 メック付
11.	バネ座金	ｶﾜｻｷ:89-1750-160002 B&S:89-1750-200002	1	ｶﾜｻｷ:Φ16 B&S:Φ20
12.	ナイフステー取付ボルト	ｶﾜｻｷ:89-1113-100252 B&S:0244-51600	2	ｶﾜｻｷ:8T/M10×25/メック付 B&S:8T/M14×30/メック付
13.	バネ座金	ｶﾜｻｷ:89-1750-100002 B&S: 89-1750-140002	2	ｶﾜｻｷ:Φ10 B&S:Φ14
14.	バッテリ	80-1792-976-00	1	30A-19L
15.	走行ベルト	89-6133-002900	1	RCLB－29
16.	ナイフベルト	89-6123-007503	1	ｽｰﾊﾟｰｺﾞｰﾙﾄﾞ 1000/LB75
17.	ナイフクラッチワイヤ	0207-70310	1	
18.	ナイフブレーキワイヤ	0207-77510	1	
19.	デフロックワイヤ	0207-70700	1	
20.	スロットルワイヤ	ｶﾜｻｷ:0207-70400 B&S:0207-70200	1	
21.	チョークワイヤ	ｶﾜｻｷ:0238-70200 B&S:83-1483-957-00	1	
22.	エンジンオイルフィルタ	ｶﾜｻｷ:49065-2071 B&S:842921	1	
23.	フォームエレメント	ｶﾜｻｷ:11013-7034 B&S: 272490S		
24.	ペーパエレメント	ｶﾜｻｷ:11013-7017 B&S:394018S		
25.	ナイフ警告マーク	83-1484-921-00	1	手足危険…
26.	RM 警告ラベル（一般）	0308-75300	1	安全の為、取扱･･･
27.	RM 警告ラベル（作業）	0262-81200	1	消耗部品交換の際には･･･
28.	注意マーク⑰	83-1516-908-00	2	このカバーなし…
29.	注意マーク④	80-1791-935-00	1	公道乗車禁止…
30.	年次点検ﾗﾍﾞﾙ	0215-70800	1	安全のため、年次…

《定期自主点検表》

★点検や整備を怠ると事故や故障の原因となる事があります。正常な機能を発揮させ、いつも安全な状態であるようにこの「定期自主点検表」を参考に点検を行って下さい。
★年次点検は１年に１回、月次点検は１ヶ月に１回、始業点検は作業を開始する前に毎日点検を行うようにして下さい。

項目		点検内容		点検実施時期 始業	月次	年次
原動機	本体	①かかり具合、異音	始動の際、容易に起動するか	○	○	○
		②回転数と加速の状態	回転速度を徐々に上げ、正常に滑らかに回転するか	○	○	○
		③排気の状態及びガス漏れ	排気色、排気臭及び排気音は正常か。	○	○	○
		④エアクリーナの損傷、弛み、汚れ	損傷なく、取付部に弛み、著しい汚れはないか	○	○	○
		⑤シリンダヘッドと各マニホルド締付部の弛み	ガス漏れ､亀裂､腐食はないか*（正常締付トルクで弛みはないか）			○
		＊⑥弁すきま	**バルブクリアランスは適正か（正規の隙間であるか）**			○
		＊⑦圧縮圧力	**ピストンリングに摩耗は無いか（正規の圧縮圧力であるか）**			○
		⑧エンジンベースの亀裂、変形、ボルト・ナットの弛み	エンジンベースに亀裂､変形又はボルト･ナットに弛みはないか	○	○	○
	潤滑装置	①油量、汚れ	オイル量は適切か、オイルに汚れ、水・金属等の混入はないか	○	○	○
		②油漏れ	オイルシール、ガスケット部に油漏れはないか	○	○	○
	燃料装置	①燃料漏れ	燃料の漏れはないか	○	○	○
		②燃料フィルタの詰まり	著しい汚れ、変形、目詰まりはないか		○	○
		③燃料の量及び質	燃料は入っているか、又質は良いか	○	○	○
		④燃料ホース	ホースこすれ、ひび割れ、敗れはないか		○	○
	電気装置	①電気配線の接続部の弛み、損傷	ハーネス接続は適切か、又弛み、こすれ、ｼｮｰﾄ、損傷はないか		○	○
	清浄装置	①エアクリーナエレメントの汚れ	エアクリーナエレメントに汚れ、目詰まりはないか	○	○	○
		②エレメントの破損	エレメントに破れ、スリ切れはないか	○	○	○
	冷却系統	①回転スクリーンへの草屑等の目詰まり	回転スクリーンが草屑等で目詰まりしていないか	○	○	○
		②マフラへの草屑等の堆積	マフラ周辺に草屑が堆積していないか	○	○	○
伝達装置	ベルト	①弛み	ベルトの張り具合は適切か	○	○	○
		②損傷、汚れ	亀裂、損傷、著しい汚れはないか		○	○
	ﾐｯｼｮﾝ	**＊①異音、異常発熱及び作動**	**作動に異常はないか、又、異音、異常発熱はないか**		○	○
		＊②油量、汚れ	**オイルの量は適切か、又、著しい汚れはないか**		○	○
		＊③油漏れ	**オイルシール、パッキン部に油漏れはないか**	○	○	○
制動装置	ブレーキ	①駐車ブレーキの利き具合	利きにあまさ又は引きずりはないか、ドラム内に水の浸入は無いか	○	○	○
		②ブレーキドラム内へのオイル漏れ	ブレーキドラム内にオイルの漏れは無いか	○	○	○
		③遊び	駐車ブレーキペダルの遊びは適切か	○	○	○
		④ロッド及びワイヤの損傷、弛み、ガタ、割ピンの欠落	著しい損傷及び弛み、ガタ、割ピンの脱落はないか	○	○	○
車体	車体	①亀裂、変形及び取付ボルト・ナットの弛み、脱落	フレームの亀裂、変形、ボルト・ナットの緩み、脱落はないか		○	○
	カバー	①亀裂、変形、腐食	亀裂、変形、腐食はないか		○	○
	可動部	①各レバー＆ワイヤ等の作動状態	作動はスムーズか、油切れを起こしていないか		○	○
変速	変速レバー	①操作具合	作動に異常はないか	○	○	○
		②弛み、ガタ	レバー取付に異常はないか	○	○	○
走行装置	タイヤ（ホイル）	①空気圧及び溝の深さ	基準値内であること	○	○	○
		②亀裂、損傷及び偏摩耗	亀裂、損傷及び偏摩耗はないか	○	○	○
		③金属片、石その他の異物の噛み込み	異物の噛み込みはないか	○	○	○
		④ボルト・ナットの弛み、脱落	ボルト・ナットの緩み、脱落はないか	○	○	○
		⑤ガタ、異音	取付部に異音、ガタはないか		○	○
安全	表示ﾏｰｸ	①損傷	警告ラベル及び銘板が損傷なく取り付けられているか		○	○
	反射板	①損傷、脱落	損傷及び脱落はないか		○	○
刈取	ナイフ	①ナイフの切味	摩耗の確認、交換	○	○	○
		②セットボルト、ナットの緩み欠落	著しい損傷及び緩み、脱落はないか	○	○	○
		③異物のからみつき	ひも、針金の除去	○	○	○

※＊印は販売店にご相談下さい。但し、有料となります。

《自己診断表》

次のような現象が発生した場合には、取扱説明書を参考にして適切な処置をして下さい。

現　　象	原　　因	処　　置
刈草がうまく放出しない	草が湿っている	草が乾燥してから作業する
	草が長い	刈高さを高くして二度刈する
	刈高さが低い	刈高さを高くする
	エンジン回転が低い	最高回転にする
	作業速度が速い	作業速度を落とす
刈残しが出る	作業速度が速い	作業速度を落とす
	エンジン回転が低い	最高回転にする
	ナイフの摩耗、破損	新しいナイフと交換する
	ナイフカバー内への草屑の堆積	ナイフカバー内側を清掃する
	草が長い	刈高さを高くして二度刈する
	追刈りをしている	向かい刈りをする
土削りを発生する	刈高さが低い	刈高さを高くする
	旋回速度が速い	旋回時の速度を落とす
	地形にうねりがある	刈取りパターン(刈取り方向)を変える
	地形の起伏(凸凹)が多い	刈高さを高くする
	ナイフステーの曲がり	新しいナイフステーと交換する
ナイフがスリップする	ベルトの張力が低い	ベルトの張力を調整する
	ナイフカバー内へに異物の詰まり	ナイフカバー内を清掃する
	プーリへの草の堆積	プーリをきれいに清掃する
	ベルトの摩耗	新しいベルトと交換する
ナイフが５秒以内に停止しない	ナイフブレーキシューの摩耗	ナイフブレーキを交換する
	ナイフブレーキの調整不良	ナイフブレーキを調整する
振動が大きい	ナイフのバランスが悪い	ナイフを修正する(両ナイフ)
	ナイフの損傷	新しいナイフと交換するか、修正する
	ナイフネックガードへの草の堆積	ナイフネックガード内部を清掃する
	ナイフ軸が曲がっている	ナイフ軸を交換する。
	ナイフベルトの破損	新しいベルトと交換する
	ナイフステーの曲がり	ナイフステーを交換する
	新旧のナイフが混在している	新旧のナイフは混在させない
刈取り作業負荷が大きい	エンジン回転が低い	エンジン回転を上げる
	作業速度が速い	作業速度を落とす
	ナイフの回転軸への草の巻き付き	ナイフ軸をきれいに清掃する
	草が長い	刈高さを高くして、二度刈りをする
	刈高さが低い	刈高さを高くする
タイヤがスリップして直進しない	デフロックが「切」位置である	デフロックを「入」位置にする
	圃場が軟弱である	圃場が乾くまで作業を中断する
変速レバーを「N」位置にしても停止しない	変速レバーの「N」位置がズレている	変速レバーのターンバックルで中立「N」位置を調整する
登坂力が低下したようだ	走行ベルトの張力不足	走行ベルトを張るか交換する
変速レバーを操作しても本機が動かない	駐車ブレーキが解除されていない	駐車ブレーキを解除する
	走行クラッチが「切」位置である	走行クラッチを「入」位置にする
駐車ブレーキの利きが悪い	ブレーキシューの摩耗	ブレーキシューの交換
	ブレーキドラム内へのオイルの侵入	脱脂とオイルシールの交換
	ブレーキドラム内への水の浸入	ブレーキを入・切しドラム内を乾かす
	調整不良	ﾌﾞﾚｰｷ後部のｱｼﾞｬｽﾄﾅｯﾄで調整する。
	タイヤの摩耗	タイヤを交換する。
	割ピン、アジャストナットの脱落、弛み	割ピン、アジャストナットの交換、増締め

※ わからない場合には、お買い上げいただいた販売店にご相談下さい。

《エンジンの不調とその処理方法》

もしエンジンの調子が悪い場合があれば、次の表により診断し、適切な処置をして下さい。

現　　象	原　　因	処　　置
スタータが回らない	駐車ブレーキペダルを踏み込んでない	ペダルを踏み込むかストッパでロックする
	刈高調整レバーが「移動」位置でない	刈高調整レバーは始動時「移動」位置にする
	シートに座っていない	シートに座って始動する
	セーフティスイッチの調整不良	スイッチの作動範囲 2～8mm に調整する
	バッテリの過放電	普通電流で充電する
	バッテリコードの外れ	コードをつなぐ
	カプラ配線の外れ	接続する
	ヒューズ切れ	ヒューズを交換する
始動困難な場合	スロットルレバーが「始動」位置でない	スロットルレバーを「始動」〈N〉位置にする。
	チョークレバーが「始動」位置でない	エンジン冷却時チョークレバーを「始動」位置にす
	燃料が流れない	燃料タンクを点検し、沈殿している不純物や水分を除去する
		燃料コックのストレーナを取り外し、カップ内の沈殿物を除去し付着しているゴミを取り除く
	インライン燃料フィルタのつまり	インライン燃料フィルタを交換する(該当機)
	燃料送油系統に空気や水が混入している	異物を取り除き、締付バンドを点検し、損傷があれば新品と交換する
	寒冷時にオイルの粘度が高く、エンジンの回転が重い。	気温によってオイルを使い分けする
	点火コイル、又はユニットの不良	＊点火コイル、又はユニットを交換する
	点火プラグの不調	点火プラグの電極の隙間を点検し、調整する
		新しい点火プラグと交換する
	バッテリが放電気味である	バッテリは未使用期間中は取り外し、満充電状態で室内に保管し、使用時に取付ける
	燃料の質が悪い	新しい良質の燃料と交換する
	燃料不足	燃料を補給する
出力不足の場合	燃料不足	燃料を補給する
	エアクリーナの目詰まり	エレメントを清掃する
	燃料の質が悪い	良質の燃料と交換する
	チョークが完全に開いていない	チョークレバーを完全に戻し〈I〉位置にする
	冷却系統が目詰まりをしている	回転スクリーン周辺を清掃する
突然停止した場合	燃料不足	燃料を補給する
	燃料コックが閉じている	燃料コックを開く
排気色が異常に黒い場合	燃料の質が悪い	良質の燃料と交換する
	エアクリーナエレメントの目詰まり	エレメントを清掃する
マフラから黒煙が出､出力が低下した	エアクリーナエレメントの目詰まり	エレメントを清掃する
	チョークが完全に開いていない	チョークレバーを完全に戻す〈I〉位置にする
マフラから青白煙が出た場合	エンジンオイルの入れすぎ	正規のオイル量にする
	シリンダ・ピストンリングの摩耗	＊リングを交換する
エンジン回転が安定しない	チョークが完全に開いていない	チョークレバーを完全に戻す〈I〉位置にする
	燃料の質が悪い	良質の燃料と交換する
しばらくするとエンストする	点火コイルの不良	＊点火コイルを交換する
	燃料フィルタの目詰まり	燃料フィルタを清掃する
排気に刺激臭がある	燃料の質が悪い	良質の燃料と交換する

※＊印は販売店にご相談下さい。但し、有料となります。

※わからない場合は、お買い上げいただきました販売店にご相談下さい。

《バッテリの故障とその処理方法》

現　　象	原　　因	処　　置	防　止　法
スタータが回らない	充電を怠った	普通充電で、長時間充電する	バッテリは無理して使わず、充電は早めに行う。
	ターミナルの接触不良	ターミナルをよく洗い、締め付ける	ターミナルは清潔にし、しっかりと締め付けてグリスを塗る
	バッテリの寿命	バッテリの交換	
スタータが勢いよく回らない。液口から見ると、極板上部が白い	充電が不完全	普通充電で、長時間充電する	使用前に充電を完全に行う
	電解液の不足	蒸留水を補充して充電する	液量の点検を定期的に行う
	バッテリの酷使(過放電)となった	普通充電で、長時間充電する	バッテリは無理して使わず、充電は早めに行う
充電しても充電できない	バッテリの寿命	バッテリの交換	
	ヒューズ切れ	ヒューズの交換	
端子の腐食がひどく、端子が熱くなる	ターミナルの接触不良	ターミナル部をよく洗い、締め付ける	ターミナル部は清潔にし、しっかりと締め付けてグリスを塗る
	ターミナル部の汚れ		
電解液の減りが早い	電槽にひび割れがある	バッテリの交換	取付けをしっかりとする
	充電電圧が高すぎる	充電器の交換	
	バッテリの寿命	バッテリの交換	

※わからない場合には、製品お買い上げの販売店にご相談ください。

《電解液による事故時の処理方法》

危険の程度	事故の種類	処置方法
⚠ 危険	目に入った場合	直ちに多量の清水で洗眼した後、速やかに医師(眼科医)の治療を受けて下さい。
	口に入るか飲み込んだ場合	直ちに飲料水でうがいを繰り返した後、多量の清水を飲み、速やかに医師の治療を受けて下さい。
⚠ 警告	皮膚、衣服に付着した場合	直ちに多量の水で洗い流した後、更に石鹸で十分に洗って下さい。
⚠ 注意	車両に付着した場合	直ちにウエス等でふき取った後、水で洗い流して下さい。
	床や地面にこぼした場合	重炭酸ソーダ(重曹)等を泡が出なくなるまで散布した後、多量の水で洗い流して下さい。

《バッテリ充電時間のめやす》

急速充電したバッテリは逆に急速に放電します。バッテリは下記充電時間を守り、急速充電は緊急時に限って下さい。（充電電流３Ａ～４Ａ）

比重値(２０℃)	充電時間 (時)
1,240 以上	4～5
1,200～1,240	6～7
1,160～1,200	8～9
1,120～1,160	10～12
1,120 以下	15 以上

比重(２０℃)	放電電気量(%)	残存電気量(%)
1,280(1,260)	0	100
1,230(1,210)	25	75
1,180(1,160)	50	50
1,130(1,110)	75	25
1,080(1,060)	100	0

※注意事項（ ）内は完全充電状態で 1,260 電解液比重のもの

充電中の液温が 45℃以上になるような時は、電流値を半減するか又は一旦充電を休止するなど、液温を下げてから充電を行って下さい。